

官報

號外

昭和十八年三月二日

○第八十一回貴族院議事速記録第十五號

昭和十八年三月一日(月曜日)午前十時十分開議

議事日程 第十五號

昭和十八年三月一日

午前十時開議

第一 東京都制案(政府提出、衆議院送付)

第二 戰時行政特例法案(政府提出、衆議院送付)

第三 許可認可等臨時措置法案(政府提出、衆議院送付)

第四 教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第五 日本證券取引所法案(政府提出、衆議院送付)

第六 市街地信用組合法案(政府提出、衆議院送付)

第七 外貨債處理法案(政府提出、衆議院送付)

第八 特殊財産資金特別會計法案(政府提出、衆議院送付)

第九 農業團體法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

官報號外 昭和十八年三月一日

貴族院議事速記録第十五號 會議 議員ノ請暇 東京都制案 第一讀會

第十 水産業團體法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ガナケレバ、諸般ノ報告ハ朗讀ヲ省略致シタイト存ジマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス〕

去月二十七日議決ニ係ル議員男爵中村謙一君ニ對スル弔辭ハ即日之ヲ贈レリ

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和十八年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

營業用品資金特別會計法案

造幣局ノ資金ニ關スル法律案

昭和十五年法律第六十九號中改正法律案

昭和十二年法律第八十號改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

木炭需給調節特別會計法中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十八年度歳入歳出總豫算案、昭和十八年度各特別會計歳入歳出總豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、昭和十七年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)、昭和十七年度各特別會計歳入歳出總豫算追加案(特第一號)、昭和十八年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)、昭和十八年度各特別會計歳入歳出總豫算追加案(第一號)、昭和十八年度各特別會計歳入歳出總豫算追加案(第一號)

加案(特第一號)、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)、特殊財産資金豫算案、昭和十八年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)、昭和十八年度各特別會計歳入歳出總豫算追加案(特第二號)可決報告書

樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案可決報告書

朝鮮事業公債法中改正法律案可決報告書

朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法案可決報告書

臺灣事業公債法中改正法律案可決報告書

臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案可決報告書

戰時行政特例法案可決報告書

許可認可等臨時措置法案可決報告書

教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案可決報告書

朝鮮郵便年金ノ事務ニ關スル郵便物ニ關スル法律案可決報告書

請願委員會特別報告第三號

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

東京都制案

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

自動車交通事業法中改正法律案

藥事法案

船員保險法中改正法律案

軍事扶助法中改正法律案

商工經濟會法案

商工組合法案

商工組合中央金庫法中改正法律案

東北興業株式會社法中改正法律案

會計検査院法中改正法律案

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、請暇ノ件ニ付御諮リヲ致シマス、川上親晴君ヨリ、病氣ニ付會期中請暇ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異議コザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第一、東京都制案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、湯澤內務大臣

〔左ノ案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス〕

東京都制案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月二十七日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

(小字及ハ衆議院ノ修正ナリ)

東京都制案

第一章 總則

第一節 都及其ノ區域

第二節 都住民及其ノ權利義務

第三節 都條例及都規則

第二章 都議會

第一節 組織及選舉

第二節 職務權限

第三節 都參事會

第一節 組織及選舉

第二節 職務權限

第四章 都ノ官吏及吏員

第五章 給料及給與

第六章 都ノ財務

第一節 財產、營造物及都稅

第二節 歳入出豫算及決算

第七章 都ノ監督

第八章 區市町村

第一節 區

第二節 市町村

第九章 雜則

東京都制

第一章 總則

第一節 都及其ノ區域

第一條 東京都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第二條 都ノ區域ハ從來ノ東京府ノ區域ニ依ル

第三條 都ノ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム但シ區市町村ノ設置ヲ伴ハザル場合ニ於テハ都參事會並ニ關係アル府縣參事會及區市町村會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

都ノ境界變更ニ伴フ府縣又ハ都外ノ市町村ノ廢置分合、境界變更又ハ財産處分ハ前二項ノ規定ニ依ル

所屬未定地ヲ都ノ區域ニ編入セントスルトキハ第一項但書ノ例ニ依ル

第四條 都ト都外ノ市町村トノ境界ニ關スル爭論ハ內務大臣之ヲ裁定ス

都ト都外ノ市町村トノ境界判明ナラザル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ內務大臣之ヲ決定スベシ

第一項ノ規定ニ依ル裁定及前項ノ規定ニ依ル決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ都及關係アル市町村ニ交付スベシ

市制第五條及町村制第四條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第二節 都住民及其ノ權利義務

第五條 都内ニ住所ヲ有スル者ハ都住民トス

都住民ハ本法ニ從ヒ都ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ都ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第六條 帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來都住民タルモノハ都公民トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 禁治產者及準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受ケル者

四 一定ノ住居ヲ有セザル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲グル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲グル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

都ハ都參事會ノ議決ヲ經テ前項ノ規定ニ依ル二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル二年ノ期間ハ都ノ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ

第七條 都公民ハ都ノ選舉ニ參與シ都ノ名譽職ニ就ク權利ヲ有シ都ノ名譽職ヲ

擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セザル者名譽職ニ就クコトヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セザルトキハ都ハ都參事會ノ議決ヲ經テ一年以上四年以下其ノ都公民權ヲ停止スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘザル者

二 業務ノ爲常ニ都内ニ居ルコトヲ得ザル者

三 年齡六十一年以上ノ者

四 官公職ノ爲都ノ公務ヲ執ルコトヲ得ザル者

五 四年以上都ノ名譽職ニ任ジ爾後同一ノ期間ヲ經過セザル者

六 其ノ他都參事會ノ議決ニ依リ正當ノ事由アリト認ムル者

前項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

都公民租稅滯納處分中ハ都ノ名譽職ニ就クコトヲ得ズ

第八條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ(未ダ入營セザル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ムニ依リ召集中ノモノハ都ノ公務ニ參與スルコトヲ得ズ兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)亦同ジ

第三節 都條例及都規則

第九條 都ハ都住民ノ權利義務又ハ都ノ事務ニ關シ都條例ヲ設クルコトヲ得

都ハ都ノ營造物又ハ都ノ事務ニ關シ都條例ヲ以テ規定スルモノノ外都規則ヲ設クルコトヲ得

都條例及都規則ハ一定ノ公告式ニ依リ

之ヲ告示スベシ

第二章 都議會

第一節 組織及選舉

第十條 都ニ都議會ヲ置ク

都議會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數ハ百人トス

第十一條 都議會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ區市ノ區域又ハ地方事務所長若ハ支廳長ノ管轄區域ニ依ル

前項ノ區域ノ人口著シク少キトキハ都條例ヲ以テ其ノ區域ト隣接ノ區域トヲ合セテ一選舉區ヲ設クルコトヲ得

議員ノ任期中新ニ第二項ノ區域ノ設定アリタル場合ニ於テ從前其ノ區域ノ屬シタル選舉區ノ配當議員數同項ノ規定ニ依ル關係選舉區ノ數ニ達セザルトキハ同項ノ規定ノ適用ニ付テハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間其ノ區域ハ仍設定セラレザルモノト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 各選舉區ニ於テ選舉スベキ都議會議員ノ數ハ都條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第十三條 都公民ハ總テ都議會議員ノ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第八條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 都議會議員ノ選舉權ヲ有スル都公民ハ其ノ被選舉權ヲ有ス

在職ノ檢察、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セズ

選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テハ被選舉權ヲ有セズ

都ノ官吏及有給ノ吏員、教員其ノ他ノ

職員ニシテ在職中ノモノハ都議會議員ト相兼スルコトヲ得ス

第十五條 都議會議員ハ名譽職トス
議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十六條 都議會議員中缺員ヲ生ジタルトキハ其ノ缺員ト爲リタル議員ガ選舉ノ期日ヨリ一年以内ニ缺員ト爲リタルモノナル場合ニ於テ第四十四條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシモノアルトキ又ハ選舉ノ期日ヨリ一年經過後ニ於テ缺員ト爲リタルモノナル場合ニ於テ同條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシモノアルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第五十條第四項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ヲ受クル者ナク若ハ同項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍其ノ缺員ノ數ガ第五十條第一項ニ謂フ當選者ノ不足數ト通ジテ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ都長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ補缺選舉ヲ行フベシ此ノ場合ニ於テハ第五十條第五項ノ規定ヲ準用ス

議員ノ缺員ノ數第五十條第一項ニ謂フ當選者ノ不足數ト通ジテ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至ラザルモ第五十五條第一項又ハ第三項ノ選舉ノ行ハル場合ニ於テハ其ノ選舉ト同時ニ補缺選舉ヲ行フベシ但シ第五十五條第一項又ハ第三項ノ選舉ノ告示アリタル後議員中缺員ヲ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條第七項ノ規定ハ前項ノ補缺選舉ニ之ヲ準用ス

補缺議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十七條 區市町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スベシ

名簿ニハ其ノ區市町村内ニ住所ヲ有スル選舉人ヲ登錄スベシ
選舉人ノ年齢ハ名簿確定ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス
名簿ニハ選舉人ノ氏名、住所及生年月日等ヲ記載スベシ

第十八條 區市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間區役所、市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スベシ
區市町村長ハ縦覽開始ノ日前三日目迄ニ縦覽ノ場所ヲ告示スベシ

第十九條 選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ關係者ハ縦覽期間内ニ區市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定シ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スベシ

前項ノ規定ニ依リ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ七日以内ニ都長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シ又ハ名簿ノ修正ヲ爲シタルトキハ區市町村長、前項ノ規定ニ依リ裁決ヲ爲シタルトキハ都長官ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スベシ

第二十條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス
名簿ハ次年ノ十二月十九日迄之ヲ据置クベシ
第二項ノ場合ニ於テ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ因リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區市町村長ハ直ニ之ヲ修正スベシ

スルトキハ區市町村長ハ直ニ之ヲ修正スベシ

前項ノ規定ニ依リ名簿ノ修正ヲ爲シタルトキハ區市町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スベシ

第二十一條 天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スベシ
前項ノ規定ニ依リ名簿ヲ調製、縦覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ハ都長官ノ定ムル所ニ依ル

區市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都長官ハ選舉ノ期日前二十日目迄ニ選舉ヲ行フベキ選舉區、投票ノ日時及各選舉區ニ於テ選舉スベキ議員數ヲ告示スベシ
天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハザルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ都長官ハ當該選舉區又ハ投票區ニ付投票ヲ行フベキ日時ヲ定メ投票ノ期日前七日目迄ニ之ヲ告示スベシ

第二十三條 議員候補者タラントスル者ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日目迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ヅベシ

選舉人名簿ニ登錄セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サントスルトキハ前項ノ期間内ニ其ノ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ期間内ニ届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選舉ノ期日前二日目迄議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニ非

ザレバ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ規定ニ依リ届出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタルトコヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二十四條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲サントスル者ハ議員候補者一人ニ付二百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選舉區ノ配當議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セザルトキハ前項ノ規定ニ依リ供託物ハ都ニ歸屬ス

前項ノ規定ハ議員候補者選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ被選舉權ヲ有セザルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 投票區ハ區市町村ノ區域ニ依ル
都長官必要アリト認ムルトキハ區市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設ケル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 區市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス
投票所ハ區役所、市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

投票管理者ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ投票所ヲ告示スベシ
第二十七條 議員候補者ハ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日前二日目迄ニ投票

管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出タル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セザルトキ若ハ三人ニ達セザルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スルモノ投票所ヲ開クベキ時刻ニ至リ三人ニ達セザルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セザルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムベシ

第二十八條 選舉人ニ非ザル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ズ但シ投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラズ

投票所ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハザルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムベシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨グズ

第二十九條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テハ確定裁決書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スベシ
投票時間内ニ投票所ニ入リタル選舉人

ハ其ノ時間ヲ過グルモ投票ヲ爲スコトヲ得
選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スベシ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス
自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハザル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ
投票用紙ハ都長官ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フベシ
名簿調製ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ仍選舉權ヲ有スルトキハ前住所地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スベシ

第三十條 確定名簿ニ登錄セラレザル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ但シ選舉人名簿ニ登錄セラレバキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラズ

確定名簿ニ登錄セラレタル者名簿ニ登錄セラレタルコトヲ得ザル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ選舉ノ當日選舉權ヲ有セザル者ナルトキ亦同ジ

第三十一條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スベシ
前項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムベシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムベシ

投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ付亦前二項ニ同ジ

第三十二條 選舉人ニシテ勅令ノ定ムル事由ニ因リ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲スコト能ハザルベキコトヲ證スルモノノ投票ニ關シテハ第二十九條第三項及第五項、第三

十條第一項但書並ニ前條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル願末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スベシ

第三十四條 投票管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ區市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日、町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スベシ

第三十五條 島嶼ニ於テ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハザル情況アリト認ムルトキハ都長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第三十六條 選舉長ハ區長、市長、地方事務所長又ハ支廳長ヲ以テ之ニ充ツ
選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス
選舉會ハ區役所、市役所、地方事務所、支廳又ハ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スベシ

第三十七條 都長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ開票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十八條 第二十七條ノ規定ハ選舉立會人ニ之ヲ準用ス
第三十九條 選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日選舉會ヲ開クベシ
選舉長ハ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ先ヅ第三十一條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スベシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ區市町村其ノ他都長官ノ定ムル區域毎ニ投票ヲ點檢スベシ天災事變等ノ爲選舉會ヲ開クコト能ハザルトキハ選舉長ハ更ニ其ノ期日ヲ定ムベシ

第四十條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 第二十八條第一項及第二項ノ規定ハ選舉會場ノ取締ニ之ヲ準用ス
第四十二條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スベシ

第四十三條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ
二 議員候補者ニ非ザル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三 一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セザルモノ
七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ
八 都議會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第十六條、第五十條又ハ第五十五條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第四十四條 都議會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ其ノ選舉區ノ當選議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス
當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキ

トキハ年長者ヲ取り年齡同ジキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第四十五條 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セザルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第四十六條 第二十三條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル屆出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超エザルトキハ其ノ選舉區ニ於テハ投票ヲ行ハズ

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セザルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理ニ通知シ併セテ之ヲ告示シ且都長官ニ報告スベシ

投票管理前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以内ニ選舉會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選者ト定ムベシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スベシ

第四十七條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スベシ

選舉錄、投票錄、投票其ノ他ノ關係書類ハ選舉長ニ於テ、選舉人名簿ハ區市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スベシ

第四十八條 當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉錄及投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ都長官ニ報告スベシ

當選者當選ヲ辭セントスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツベシ

者ハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ當選ニ應ズベキカヲ都長官ニ申立ツベシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テザルトキハ都長官抽籤シテ之ヲ定ム

官吏ニシテ當選シタルモノハ所屬長官ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ニ應ズルコトヲ得ズ

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應ズベキ旨ヲ都長官ニ申立テザルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應ズベキカラ申立テザルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

都ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付都長官若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者又ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタルモノハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非ザレバ當選ニ應ズルコトヲ得ズ第二項又ハ第三項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ都長官ニ申立テザルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準ズベキ者並ニ清算人ヲ謂フ

第四十九條 選舉長ハ前條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ町村長ニ返付スベシ

第五十條 當選者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テ第二項若ハ第三項ノ規定ノ適用ヲ受ケル者ナク又ハ第二項若ハ第三項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍當選者ノ不足數ガ第十條第二項ニ謂フ議員ノ缺員ノ數ト通ジテ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至

リタルトキ又ハ都長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ更ニ選舉ヲ行フベシ

一 當選ヲ辭シタルトキ

二 數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ第四十八條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ當選ニ應ジ又ハ抽籤ニ依リ一ノ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラザルニ至リタルトキ

三 第四十五條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四 死亡者ナルトキ

五 選舉ニ關スル犯罪ニ因リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ因リ選舉又ハ補缺選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

六 第五十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ

前項第一號乃至第四號ノ事由ヲ生ジタル場合ニ於テ第四十四條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシモノアルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ

第一項第五號又ハ第六號ノ事由ヲ生ジタルトキハ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年以内ナル場合ニ於テ第四十四條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシモノアルトキ又ハ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年經過後ナル場合ニ於テ同條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシモノアルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

行ハズ但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ滿タザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

當選者ノ不足數第十六條第二項ニ謂フ議員ノ缺員ノ數ト通ジテ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至ラザルモ第五十五條第一項又ハ第三項ノ選舉ノ行ハル場合ニ於テハ其ノ選舉同時ニ更ニ選舉ヲ行フベシ但シ第五十五條第一項又ハ第三項ノ選舉ノ告示アリタル後第一項ノ事由ヲ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ行フ選舉ノ期日ハ第五十五條第一項又ハ第三項ノ選舉ノ期日ニ依ル

第五十一條 第四十八條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ規定ニ依ル申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ都長官ハ直ニ當選者ニ當選證書ヲ付與シ當選者ノ住所氏名ヲ告示スベシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルニ至リタルトキハ都長官ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ズルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生ズルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

第五十三條 選舉人又ハ議員候補者選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ、當選ニ關シテハ第四十八條第一項又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタル

トキハ都長官ハ十四日以内ニ之ヲ決定スベシ
前項ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ都長官ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スベシ
第二項ノ規定ニ依ル都長官ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

都長官選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第四十八條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條、第五十條、第五十五條第一項若ハ第三項又ハ第五十六條ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ申立期間、異議ノ決定確定セザル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ズ

都議會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハズ

第五十四條 衆議院議員選舉法第一百條ノ規定ノ準用ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ第四十八條第一項ノ規定ニ依リ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得
檢事ハ衆議院議員選舉法第一百二條乃至第一百十三條ノ規定ノ準用ニ依リ罪ニ該ル事件ノ被告人ガ選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ同法第一百三十六條ノ規定ノ準用ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選者ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス

衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條、第四百一十一條及第四百一十一條ノ

三ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ訴訟ニ、同法第四百一十一條ノ二及第四百一十一條ノ三ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ訴訟ニ之ヲ準用ス
前條第七項ノ規定ハ第一項乃至第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 選舉無効ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ
當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第五十條第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ若ハ定數ニ達セザルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ

第五十條第五項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス
第一項及第三項ノ期間ハ第五十三條第六項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得ザル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條 左ニ掲グル事由アル場合ニ於テ議員又ハ當選者總テナキトキハ第十六條、第五十條又ハ前條第一項若ハ第三項ノ規定ニ拘ラズ總選舉ヲ行フ但シ左ニ掲グル事由ニ關シ此等ノ規定ニ依リ選舉ノ告示又ハ第十六條第一項若ハ第五十條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉會ノ告示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 議員中缺員ヲ生ジタルトキ
二 當選者中第五十條第一項ノ事由ニ該當スル者アルトキ
三 前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ該當スル事由アルトキ

前項ノ選舉ハ其ノ事由ヲ生ジタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ行フベシ此ノ場合ニ

於テハ前條第五項ノ規定ヲ準用ス
第五十七條 補缺選舉又ハ第五十條若ハ第五十五條第一項若ハ第三項ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第五十八條 都議會議員被選舉權ヲ有セザル者ナルトキ又ハ第四十八條第六項ニ掲グル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第四十八條第六項ニ掲グル者ニ該當スルヤ否ヤハ議員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セザル場合ヲ除クノ外都議會之ヲ決定ス此ノ場合ニ於テ議員ハ第七十二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ會議ニ出席シ自己ノ資格ニ關シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ズ

一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
二 破產者ト爲リタルトキ
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
四 選舉ニ關スル犯罪ニ因リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

都長官ハ議員中被選舉權ヲ有セザル者又ハ第四十八條第六項ニ掲グル者アリト認ムルトキハ之ヲ都議會ノ決定ニ付スベシ此ノ場合ニ於テハ都議會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スベシ

第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第一項ノ規定ニ依リ決定ニ付テハ都長官ヨリ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第五十三條第七項ノ規定ハ第一項及前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第一項ノ規定ニ依リ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スベシ

第五十九條 衆議院議員選舉法第十章及第十一章並ニ第四百十條第二項、第百

四十二條及第四百十七條ノ規定ハ都議會議員ノ選舉ニ之ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムベキ選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二節 職務權限
第六十條 都議會ノ議決スベキ事件左ノ如シ
一 都條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
二 歳入出豫算ヲ定ムルコト
三 決算報告ヲ認定スルコト
四 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、都税又ハ分擔金ノ賦課徵收ニ關スルコト
五 財産ノ取得、管理及處分並ニ都費ヲ以テ支辨スベキ工事ノ執行ニ關スル都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

六 基本財産及積立金等ノ設置及處分ニ關スルコト
七 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト
八 營造物ノ管理ニ關スル都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

九 其ノ他法令ニ依リ都議會ノ權限ニ屬スル事項
第六十一條 都議會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ都參事會ニ委任スルコトヲ得

第六十二條 都議會ハ法令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フベシ
第六十三條 都議會ハ都ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ關係行政廳ニ提出スルコトヲ得

第六十四條 都議會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スベシ

都議會ノ意見ヲ徴シテ處分ヲ爲スベキ
場合ニ於テ都議會成立セズ、招集ニ應
ズ若ハ意見ヲ提出セズ又ハ都議會ヲ
招集スルコト能ハザルトキハ當該官廳
ハ其ノ意見ヲ俟タズシテ直ニ處分ヲ爲
スコトヲ得

第六十五條 都議會ハ議員中ヨリ議長及
副議長一人ヲ選舉スベシ
議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依
ル

第六十六條 議長故障アルトキハ副議長
之ニ代リ議長及副議長共ニ故障アルト
キハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉ス
ベシ

前項ノ規定ニ依ル假議長ノ選舉ニ付テ
ハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年
同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 都長官及其ノ委任又ハ囑託
ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ
參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコ
トヲ得ズ

前項ノ規定ニ依ル列席者發言ヲ求ムル
トキハ議長ハ直ニ之ヲ許スベシ但シ之
ガ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ
得ズ

第六十八條 都議會ハ通常會及臨時會ト
ス
通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ
三十日以内トス

臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件
ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内ト
ス但シ場合ニ依リ都長官ハ七日以内ニ
於テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ會期ヲ定メタル
場合ニ於テハ第六十九條第二項ノ規定
ニ依ル告示ト同時ニ其ノ會期ヲ告示ス
ベシ

臨時會ニ付スベキ事件ハ都長官豫メ之
ヲ告示スベシ

臨時會中急施ヲ要スル事件アルト
キハ第三項及前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ
之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得
都長官必要アリト認ムルトキハ通ジテ
三日以内ニ於テ都議會ノ會期ヲ延長ス
ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ都議會ノ會期ヲ延長
シタルトキハ都長官ハ直ニ之ヲ告示ス
ベシ

第六十九條 都議會ハ都長官之ヲ招集ス
議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ付ス
ベキ事件ヲ示シテ臨時會招集ノ請求ア
ルトキハ都長官ハ之ヲ招集スベシ

招集ハ開會ノ日前十四日迄ニ之ヲ告
示スベシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ
限ニ在ラズ

都議會ハ都長官之ヲ開閉ス
第七十條 都議會ハ議員定數ノ半數以上
出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ
得ズ

第七十一條 都議會ノ議事ハ過半數ヲ以
テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決ス
ル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之
ガ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失
ハズ

第七十二條 議長及議員ハ自己又ハ父
母、祖父母、妻、子孫若ハ兄弟姉妹ノ
一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事
ニ參與スルコトヲ得ズ但シ都議會ノ同
意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言ス
ルコトヲ得

第七十三條 法令ニ依リ都議會ニ於テ行
フ選舉ニ付テハ第二十九條、第四十三
條及第四十四條第一項ノ規定ヲ準用ス
其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ
都議會之ヲ決定ス

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當
リ得票ノ數同ジキトキハ議長抽籤シテ

之ヲ定ム
都議會ハ議員中異議ナキトキハ第一項
ノ選舉ニ付指名推選ノ法ヲ用フルコト
ヲ得

指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被
指名者ヲ以テ當選者ト定ムベキヤ否ヤ
ヲ會議ニ付シ議員全員ノ同意ヲ得タル
者ヲ以テ當選者トス

一ノ選舉ヲ以テ二人以上ヲ選舉スル場
合ニ於テハ被指名者ヲ區分シテ前項ノ
規定ヲ適用スルコトヲ得ズ

第七十四條 都議會ノ會議ハ公開ス但シ
左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 都長官ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケ
タルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依
リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
前項第二號ノ議長又ハ議員ノ發議ハ討
論ヲ用ヒズ其ノ可否ヲ決スベシ

第七十五條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ
順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場
ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキ
ハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要
ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カザ
ルトキハ第六十六條ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ會議ヲ開キタルトキ
又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議
ノ議決ニ依ルニ非ザレバ其ノ日ノ會議
ヲ閉ヂ又ハ中止スルコトヲ得ズ

第七十六條 都議會議員ハ都議會ノ議決
スベキ事件ニ付都議會ニ議案ヲ發スル
コトヲ得但シ歲入出豫算ニ付テハ此ノ
限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル發案ハ議員三人以上
ヨリ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

又ハ委囑ヲ受クベカラズ
議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヒ又ハ他人
ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ズ

第七十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ
違反シ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員ア
ルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ
取消サシメ命ニ從ハザルトキハ當日ノ
會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外
ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警
察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長
ハ當日ノ會議ヲ閉ヂ又ハ中止スルコト
ヲ得

第八十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧
騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキ
ハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハザルトキ
ハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テ
ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍
聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テ
ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議
ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員又ハ第
六十七條第一項ノ規定ニ依ル列席者ハ
議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第八十二條 都議會ニ書記ヲ置キ議長ノ
指揮ヲ承ケ庶務ヲ處理セシム
書記ハ都ノ有給吏員ノ中ニ就キ都長官
之ヲ命ズ

第八十三條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ
調製シ會議ノ頭末及出席議員ノ氏名ヲ
記載セシムベシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名
スルコトヲ要ス其ノ議員ハ都議會ニ於
テ之ヲ定ムベシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ都長
官ニ報告スベシ

第八十四條 都議會ハ會議規則及傍聽人
取締規則ヲ設クベシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ都議會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル旨ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 都參事會

第一節 組織及選舉

第八十五條 都ニ都參事會ヲ置キ議長及參事會員十五人ヲ以テ之ヲ組織ス

參事會員ハ名譽職トス
第八十六條 參事會員ハ都議會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スベシ
都議會ハ參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スベシ

參事會員中缺員アルトキハ都長官ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補缺ス其ノ順序ハ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ選舉同時ナルトキハ得票數ニ依リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同ジキトキハ抽籤ニ依リ仍缺員アル場合ニ於テハ臨時補缺選舉ヲ行フベシ
參事會員及其ノ補充員ハ隔年之ヲ選舉スベシ

參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス都議會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ
參事會員ハ其ノ選舉ニ關シ第九十七條ノ規定ニ依ル處分確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハズ

第八十七條 都參事會ハ都長官ヲ以テ議長トス都長官故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

第二節 職務權限

第八十八條 都參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 都議會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコト
二 都議會中重要事件ヲ除クノ外
都議會ノ權限ニ屬スル事件ヲ都議會

ニ代リテ議決スルコト
三 都議會成立セザルトキ、招集ニ應ゼザルトキ、第七十二條ノ規定ニ依リ除斥ノ爲會議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ都長官ニ於テ都議會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ都議會ノ權限ニ屬スル事件ヲ都議會ニ代リテ議決スルコト

四 都ニ係ル訴訟、訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スルコト
五 其ノ他法令ニ依リ都參事會ノ權限ニ屬スル事項
前項第二號ノ重要事件ハ都議會ノ議決ヲ經テ都長官之ヲ定ムベシ

第八十九條 都參事會ハ都長官之ヲ招集ス參事會員定數ノ半數以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ都參事會招集ノ請求アルトキハ都長官ハ之ヲ招集スベシ
都參事會ノ會期ハ都長官之ヲ定ム

第九十條 都參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ
第三項ノ規定ニ依リ參事會員ノ數減少シテ前項ノ數ヲ得ザルトキハ都長官ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキモノヲ以テ第八十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得ザルトキハ都議會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキモノヲ臨時ニ指名シ其ノ缺員ヲ補充スベシ

議長、其ノ代理者及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫若ハ兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ズ但シ都參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ該議決キハ八年長ノ參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第九十一條 都參事會ノ議事ハ參事會員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第九十二條 都參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サズ
第九十三條 第六十三條、第六十四條、第六十七條、第六十九條第三項、第七十一條第二項、第七十三條、第七十五條第一項、第七十六條乃至第七十九條第八十二條、第八十三條第一項及第二項並ニ第八十四條第一項ノ規定ハ都參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 都ノ官吏及吏員
第九十四條 都長官ハ都ヲ統轄シ都ヲ代表ス
都長官ノ擔任スル職務ノ概目左ノ如シ
一 都費ヲ以テ支辨スベキ事件ヲ執行スルコト

二 都議會及都參事會ノ議決ヲ經ベキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スルコト
三 財産及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スルコト

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト
五 證書及公文書類ヲ保管スルコト
六 法令又ハ都議會若ハ都參事會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、都稅又ハ分擔金ヲ賦課徵收スルコト

七 其ノ他法令ニ依リ都長官ノ職權ニ屬スル事項
第九十五條 都長官ハ都行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ都ノ官吏及吏員ニ委任シ又ハ都吏員ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

都長官ハ都行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村吏員ヲシテ補助執行セシメ又ハ之ニ委任スルコトヲ得

第九十六條 都長官ハ都吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、五十圓以下ノ過怠金及解職トス

都長官ハ都吏員ノ解職ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命ジ之ニ給料ヲ支給セザルコトヲ得
懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間都北海道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ公職ニ就クコトヲ得ズ

第九十七條 都議會又ハ都參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ違反スト認ムルトキハ都長官ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ都長官ハ之ヲ再議ニ付セズ又ハ再選舉ヲ行ハシメズシテ直ニ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル都議會又ハ都參事會ノ議決又ハ選舉仍其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ違反スト認ムルトキハ都長官ハ之ヲ取消スベシ
都議會又ハ都參事會前二項ノ規定ニ依リ取消處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及第二項ノ規定ニ依リ取消處分ヲ爲シタル場合ニ於テ都議會又ハ都參事會開會中ニ非ザルトキハ都長官ハ直ニ之ヲ告示スベシ

第九十八條 都議會又ハ都參事會ノ議決明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ都長官ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ都長官ハ之ヲ再議ニ付セズシテ直ニ内務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル都議會又ハ都參事會ノ議決仍明ニ公益ヲ害スト認

ムルトキハ都長官ハ内務大臣ノ指揮ヲ請フベシ

都議會又ハ都參事會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハザルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依ル左ニ掲グル費用ヲ削減シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ伴フ收入ニ付亦同ジ一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命ズル費用其ノ他ノ都ノ義務ニ屬スル費用

二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル費用、傳染病豫防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避クベカラザル費用

第九十九條 都議會成立セザルトキ、招集ニ應ゼザルトキ、第七十二條ノ規定ニ依ル除外ノ爲會議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ都長官ニ於テ都議會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長官ハ都議會ノ權限ニ屬スル事件ヲ都參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

都參事會成立セザルトキ、招集ニ應ゼザルトキ又ハ第九十條第二項ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハザルトキハ都長官ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事件ヲ處分スルコトヲ得

都議會又ハ都參事會ニ於テ其ノ議決スベキ事件ヲ議決セザルトキハ前項ノ例ニ依ル

都議會ノ決定スベキ事件ニ關シテハ前三項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル都參事會ノ決定又ハ都長官ノ處分ニ關シテハ當該規定ニ準ジ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ規定ニ依ル處分ニ付テハ都長官ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ都議會又ハ都參事會ニ報告スベシ

第百條 都參事會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ都參

事會成立セザルトキ又ハ都長官ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長官ハ之ヲ專決處分シ次ノ會期ニ於テ之ヲ都參事會ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ都長官ノ爲シタル處分ニ關シテハ當該規定ニ準ジ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百一條 都議會及都參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ都長官ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第百二條 官吏ノ都行政ニ關スル職務關係ハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第百三條 都ニ有給吏員ヲ置キ都長官之ヲ任免ス

都ノ有給吏員ハ都長官ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

都ノ有給吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他ノ公共團體ノ事務ヲ掌ル

第百四條 都ニ都出納吏ヲ置キ官吏及吏員ノ中ニ就キ都長官之ヲ命ズ

都出納吏ハ都ノ出納事務ヲ掌ル

第百五條 本法ニ規定スルモノノ外有給吏員ノ組織、任用、分限、給料等ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

之ヲ選任ス

委員ハ都長官ノ委託ヲ受ケ都ノ事務ニ關シ必要ナル事項ヲ調査ス

第五章 給料及給與

第百八條 都議會議員、參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償及報酬ノ額並ニ其ノ支給方法ハ都條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第百九條 有給吏員ノ給料及旅費ノ額並ニ其ノ支給方法ハ都規則ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第百十條 有給吏員ノ退職料、退職給與金、死亡給與金及遺族扶助料並ニ其ノ支給方法ハ都條例ヲ以テ之ヲ定ム

第百十一條 費用辨償、退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ關係者都長官ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十二條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ都ノ負擔トス

コトヲ得

第百十六條 都ハ其ノ公益上必要ナル場合ニ於テハ密附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百十七條 都ハ其ノ必要ナル費用及法

律勅令ニ依リ都ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

都吏員ガ第百三條第三項及第百五十五條第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ都ノ負擔トス但シ法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

都又ハ都吏員ヲシテ國ノ事務ヲ處理執行セシムル場合ニ於テハ之ガ爲要スル費用ノ財源ニ付必要ナル措置ヲ講ズベキモノトス

第百十八條 都ハ其ノ支出ニ充ツル爲都稅及分擔金ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第百十九條 都稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ地方稅法ノ定ムル所ニ依ル

分擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都ノ一部ヲ利スル營造物又ハ都ノ一部ニ對シ利益アル事件ニ關シ特ニ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ徵收ス

第百二十條 使用料、手数料及分擔金ニ關スル事項ハ都條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百一十一條 使用料、手数料又ハ分擔金ノ徵收ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ都長官ニ異議ヲ申立ヲ爲スコトヲ得營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得前二項ノ場合ニ於テ都長官ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百一十二條 使用料、手数料、分擔金、過料其ノ他ノ都ノ收入ヲ定期内ニ納メザル者アルトキハ都長官ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ場合ニ於テハ都條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者第一項ノ規定ニ依リ督促ヲ受ケ其ノ指定期限迄ニ之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スベシ

第一項及第二項ノ規定ニ依リ徵收金ハ國稅ノ徵收金ニ次デ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル都長官ノ委任ヲ受ケタル官吏及吏員ガ爲シタル前三項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ都長官ニ訴願シ其ノ裁決又ハ都長官ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ規定ニ依ル處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ規定ニ依ル處分ハ都ノ區域外ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 都ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、都ノ永久ノ利益ト爲ルベキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り都議會ノ議決ヲ經テ都債ヲ起スコトヲ得

キハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ベシ
都長官ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲都參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ之ヲ償還スベシ

第二百二十四條 都長官ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前都議會ノ議決ヲ經ベシ

都ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル豫算ヲ都議會ニ提出スルコトキハ都長官ハ併セテ財産表ヲ提出スベシ

第二百二十五條 都長官ハ都議會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第二百二十六條 都費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スベキモノハ都議會ノ議決ヲ經テ其ノ年間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第二百二十七條 都ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クベシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケザルコトヲ得豫備費ハ都議會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ズ

第二百二十八條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スベシ

第二百二十九條 都ハ都議會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二百三十條 都ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第二百三十一條 都ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ翌年度ノ通常豫算ヲ議スル會議ニ於テ之ヲ都議會ノ認定ニ付スベシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル都議會ノ議決ト共ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スベシ

第二百三十二條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第七章 都ノ監督

第二百三十三條 都ハ內務大臣之ヲ監督ス

第二百三十四條 內務大臣ハ都ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

內務大臣ハ都ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二百三十五條 內務大臣ハ都議會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

都議會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スベシ

解散後初テ都議會ヲ招集スルコトキハ都長官ハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ニ拘ラズ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第六十八條第四項、第七項及第八項ノ規定ハ前項ノ都議會ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 都債ヲ起シ又ハ起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セントスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケベシ但シ第二百三十三條第三項ノ借入金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二百三十七條 主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セズト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第二百三十八條 主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニシテ輕易ナルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケシメザルコトヲ得

第二百三十九條 都吏員ノ服務紀律並ニ都

出納吏及都吏員ノ賠償責任、身元保障及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 區市町村

第一節 區

第四百十條 區ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ其ノ財産及營造物ニ關スル事務並ニ都條例ノ定ムル所ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ區域及名稱ハ從來ノ東京市ノ區ノ區域及名稱ニ依ル

第四百一十一條 區ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サントスルトキハ都長官ハ關係アル區市町村會ノ意見ヲ徵シ內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

都ノ境界變更ニ伴フ區ノ廢置分合又ハ境界變更ニ關シテハ第三條第一項ノ規定ニ依ル

區ノ廢置分合又ハ境界變更ノ場合ニ於テ財産アルトキハ其ノ處分ハ關係アル區市町村會ノ意見ヲ徵シテ都長官之ヲ定ム但シ前項ノ場合ニ於ケル財産處分ニ關シテハ第三條第二項ノ規定ニ依ル

所屬未定地ヲ都ノ區域ニ編入スル場合ニ於テ其ノ所屬スベキ區ヲ定ムルニ付テハ第三條第四項ノ規定ニ依ル

第四百一十二條 區ノ境界ニ關スル爭論ハ都長官之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル區市町村ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

區ノ境界判明ナラザル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ都長官之ヲ決定スベシ其ノ決定ニ不服アル區市町村ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル裁定及前項ノ規定ニ依ル決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係區市町村ニ交付スベシ

都ノ境界ニ涉リテ第一項又ハ第二項ノ

場合ヲ生ジタルトキハ第四條ノ規定ニ依ル

第百四十三條 都ハ區ノ營造物又ハ區ノ事務ニ關シ都條例又ハ都規則ヲ設クルコトヲ得

前項ノ都條例ニ付テハ都議會ニ代リテ區會之ヲ議決ス

第百四十四條 區ニ區會ヲ置ク

區會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一 人口十五萬未満ノ區 十五人

二 人口十五萬以上二十五萬未満ノ區 二十人

三 人口二十五萬以上ノ區 二十五人

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非ザレバ之ヲ増減セズ

第百四十五條 區内ニ住所有スル都公民ハ總テ區會議員ノ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第八條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十六條 區會議員ノ選舉權ヲ有スル都公民ハ其ノ被選舉權ヲ有ス

在職ノ檢察、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セズ

選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テハ被選舉權ヲ有セズ

都ノ官吏、有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノモノハ區會議員ト相兼スルコトヲ得ズ

第百四十七條 區會議員ハ都ノ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四十八條 區會議員ノ選舉ハ其ノ區ニ於ケル都議會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

第百四十九條 第五十九條ノ規定ハ區會議員ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第百五十條 區會ノ議決スベキ事件左ノ如シ

一 歳入出豫算ヲ定ムルコト

二 決算報告ヲ認定スルコト

三 營造物ノ設置及處分ニ關スルコト

四 財産ノ取得、管理及處分並ニ區費ヲ以テ支辨スベキ工事ノ執行ニ關スル都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト

六 營造物ノ管理ニ關スル都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

七 區ニ係ル訴訟、訴訟及和解ニ關スルコト

八 其ノ他法令ニ依リ區會ノ權限ニ屬スル事項

第百五十一條 區會ハ議員中ヨリ議長及副議長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

議長及其ノ代理者ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第百五十二條 區長ハ區ノ事務及都長官ノ命ヲ承ケ區内ニ關スル都ノ事務ヲ掌ル

區長ハ其ノ事務ノ一部ヲ區所屬ノ官吏及吏員ニ委任シ又ハ吏員ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

第百五十三條 區長ハ町内會部落會及其ノ聯合會ノ財産及經費ノ管理並ニ區域ノ變更ニ關シ必要ナル措置ヲ講ズルコトヲ得

區長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ町内會部落會及其ノ聯合會ハ自己ノ名ヲ以テ財産ヲ所有スルコトヲ得

區長ハ町内會部落會及其ノ聯合會ノ長ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ援助セシムルコトヲ得

第百五十四條 區所屬ノ官吏ノ區行政ニ關スル職務關係ハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第百五十五條 區所屬ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區所屬ノ吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他ノ公共團體ノ事務ヲ掌ル

第百五十六條 區ニ區出納吏ヲ置キ區所屬ノ官吏及吏員ノ中ニ就キ都長官之ヲ命ズ

區出納吏ハ區ノ出納事務ヲ掌ル

第百五十七條 區ハ其ノ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ規定ニ依リ支出ハ區ノ財産ヨリ生ズル收入其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ都ハ都費ヲ以テ之ニ充ツベシ

第百五十八條 區ハ第一次ニ於テ都長官、第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第百五十九條 本法ニ規定スルモノノ外區會議員ノ選舉、區會ノ職務權限、區ノ財務、區ノ監督其ノ他區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 市町村

第百六十條 都内ノ市町村ニ付テハ市制第三條乃至第五條、第九條乃至第十一條、第十四條、第二十條ノ二乃至第二十一條ノ五、第七十六條及第七十七條條並ニ町村制第三條、第四條、第七條乃至第九條、第十二條、第十七條ノ二乃至第十八條ノ五、第六十三條第九項及第百五十三條ノ規定ニ拘ラズ本法ノ定ムル所ニ依ル

第百六十一條 第百四十一條及第百四十

二條ノ規定ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他市町村ノ境界ニ關シ之ヲ準用ス

第百六十二條 二年以來市町村内ニ住所有スル都公民ハ市町村ノ選舉ニ參與シ市町村ノ名譽職ニ就ク權利ヲ有シ市町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セザル者名譽職ニ就クコトヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セザルトキハ市町村ハ市町村會ノ議決ヲ經テ一年以上四年以下其ノ市町村ノ公務ニ參與スルノ權ヲ停止スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘザル者

二 業務ノ爲常ニ市町村内ニ居ルコトヲ得ザル者

三 年齡六十一年以上ノ者

四 官公職ノ爲市町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得ザル者

五 四年以上其ノ市町村ノ名譽職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セザル者

六 其ノ他市町村會ノ議決ニ依リ正當ノ事由アリト認ムル者

前項ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ都長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

都公民租稅滯納處分中ハ市町村ノ名譽職ニ就クコトヲ得ズ

第百六十三條 市町村ハ市町村會ノ議決ヲ經テ前條第一項ノ規定ニ依リ二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

前條第一項ノ規定ニ依リ二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第百六十四條 第八條ノ規定ニ該當スル者ハ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得

ズ

第百六十五條 二年以來市町村内に住居所有スル都公民(第百六十三條第一項ノ規定ニ依リ二年ノ制限ヲ特免セラレタル者ヲ含ム)ハ總テ市町村會議員ノ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者、第百六十二條第二項ノ規定ニ依リ市町村ノ公務ニ參與スルノ權ヲ停止セラレ其ノ停止中ノ者又ハ前條ノ規定ニ依リ市町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ザル者ハ此ノ限ニ在ラス

第百六十六條 有給市町村長、有給助役、考査役、收入役及副收入役ハ第百六十二條第一項及前條ノ規定ニ拘ラズ在職ノ間其ノ市町村ノ市町村會議員ノ選舉權ヲ有ス

第百六十七條 市町村會議員ノ選舉ハ其ノ市町村ニ於ケル都議會議員選舉人名簿中其ノ名簿調製期日ニ於テ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ關スル部分(以下都議會議員選舉人名簿中關係部分ト稱ス)及第四項ノ選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ノ年齡ハ前項ノ選舉人名簿確定ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス都議會議員選舉人名簿中關係部分ノ脱漏又ハ誤載ニ關シテハ第百六十八條ノ例ニ依ル

市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ノ選舉人名簿ヲ調製スベシ

第百六十八條 都内ノ市町村ニ付テハ市制及町村制中府縣知事又ハ知事トアルハ都長官、府縣高等官トアルハ都高等官、府縣名譽職參事會員トアルハ都參事會員トス

都内ノ市ニ付テハ市制第十六條第四項中第七十六條又ハ第七十九條第三項ノ規定ニ依リ市公民タル者トアルハ東京都制第百六十六條ノ規定ニ依リ市會議員ノ選舉權ヲ有スル者、市制第十八條第一項中選舉權ヲ有スル市公民トアルハ市會議員ノ選舉權ヲ有スル者、市制第七十三條第五項及第八十二條第二項中市公民中選舉權ヲ有スル者トアルハ市會議員ノ選舉權ヲ有スル者、市制第八十二條ノ二第三項中市公民トアルハ市會議員ノ選舉權ヲ有スル者、市制第十四條第一項中市公民トアリ市公民タル者トアルハ市會議員ノ選舉權ヲ有スル者、市制第百七十條第三項中市府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會員ニ關スル規定トアルハ東京都制中都參事會員及都參事會員ニ關スル規定トス

都内ノ町村ニ付テハ町村制第十五條第一項及第三十八條第一項中選舉權ヲ有スル町村公民トアルハ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者、町村制第六十三條第八項及第六十八條第二項中町村公民中選舉權ヲ有スル者トアルハ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者、町村制第六十九條第三項中町村公民トアルハ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者、町村制第七十條第一項中町村公民トアリ町村公民タル者トアルハ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者、町村制第百五十條第三項中市府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會員ニ關スル規定トアルハ東京都制中都參事會員及都參事會員ニ關スル規定トス

第百六十九條 都ノ境界變更アリタル場合ニ於テ都ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十條 都内ノ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ第一章第一節、第二章第一節及第四章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合會ハ之ヲ町村會、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス但シ第三條第一項又ハ第二十一條第三項中町村トアルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

都内ノ町村組合ニシテ町村ノ役場事務ヲ共同處理スルモノハ第二章第一節及第四章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス但シ第二十一條第三項中町村トアルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百七十一條 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第百七十二條 第六十七條第一項(第九十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及第百四條第一項ノ規定ニ依ル都長官ノ職權ハ警視總監モ亦之ヲ行フ

第百七十三條 都ト府縣又ハ都外ノ市町村トガ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲組織スル組合ノ設置、管理其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ第一章第一節、第二章第一節及第四章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合會ハ之ヲ町村會、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス但シ第三條第一項又ハ第二十一條第三項中町村トアルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

都内ノ町村組合ニシテ町村ノ役場事務ヲ共同處理スルモノハ第二章第一節及第四章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス但シ第二十一條第三項中町村トアルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百七十一條 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第百七十二條 第六十七條第一項(第九十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及第百四條第一項ノ規定ニ依ル都長官ノ職權ハ警視總監モ亦之ヲ行フ

第百七十三條 都ト府縣又ハ都外ノ市町村トガ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲組織スル組合ノ設置、管理其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第百七十五條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ベキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

第百七十六條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スベシ但シ本法中別ニ期間ヲ

定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ但シ第九十七條第四項ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタル場合ニ於テハ告示ノ日ヲ以テ處分ヲ受ケタル日ト看做ス

決定書又ハ裁定書ノ交付ヲ受ケザル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スベシ異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セズ但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要アリト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百七十七條 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除ク外其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

都長官訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ裁決スベシ

第百七十八條 島嶼ニ關スル行政ノ特例ニ付必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

附則

第百七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八十條 東京府、東京市及東京市ノ區ハ之ヲ廢ス

第百八十一條 本法施行ノ際東京府及東京市ニ屬スル財産、營造物、事業及權利義務ハ都之ヲ承繼ス

第百八十二條 本法施行ニ至ル迄引續キ東京府ノ區域内ニ住所ヲ有シタル者ハ

第六條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ期間引續キ都内ニ住所ヲ有シタル者ト看做ス

第百八十三條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復権ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第百八十四條 本法施行前東京府又ハ東京市ノ名譽職ニ任ジタル者ハ第七條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ都ノ名譽職ニ任ジタルモノト看做ス

第百八十五條 本法施行後初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

前項ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

第百八十六條 本法施行ノ際東京市ノ區ニ屬スル財産、營造物、事業及權利義務ハ各其ノ區域ヲ以テ區域トスル區之ヲ承繼ス

第百八十七條 本法施行ノ際東京市ノ區ノ區會議員ノ職ニ在ル者ハ各其ノ區域ヲ以テ區域トスル區ノ區會議員ト爲リタルモノトシ其ノ任期ハ昭和十九年三月三十一日迄トス

前項ノ場合ニ於テ議員ノ職ニ在ル者ノ數第百四十四條ノ定數ヲ超ユルモ其ノ數ヲ以テ議員ノ定數トス但シ議員中缺員ヲ生ジタルトキハ之ニ應ジ其ノ議員ノ定數ハ同條ノ定數ニ至ル迄減少スルモノトス

第百八十八條 本法施行ノ際東京府内ノ市町村ノ市町村住民ニシテ市制第九條第二項又ハ町村制第七條第二項ノ規定ニ依リ二年ノ制限ヲ特免セラレタルモ

ノハ第百六十三條第一項ノ規定ニ依リ二年ノ制限ヲ特免セラレタルモノト看做ス

第百八十九條 東京府又ハ東京市ノ有給吏員本法施行ノ際引續キ都ノ官吏ト爲リタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ官吏ノ在職ニ引續スル有給吏員ノ勤続年數ハ之ヲ公務員トシテノ在職年數ニ通算ス

第百九十條 他ノ法律(市制、町村制、府縣制、北海道會法、北海道地方費法、地方税法、地方分與税法及大正十一年法律第一號並ニ特ニ東京都ニ關スル規定ヲ設ケタルモノヲ除ク以下同ジ)中

東京都又ハ東京府知事トアルハ各東京都又ハ東京都長官トス

他ノ法律中府縣制、府縣、府縣廳、府縣條例、府縣會議、府縣會議員、府縣參事會、府縣名譽職參事會、府縣知事、府縣吏員、府縣出納吏、府縣費又ハ府縣稅トアルハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外各東京都制、東京都廳、東京都條例、東京都議會、東京都參事會、東京都參事會、東京都官吏及吏員、東京都出納吏、東京都費又ハ東京都稅ヲ含ムモノトシ其ノ他府縣ニ係ル規定ニ付之ニ準ズルモノトス

第百九十一條 他ノ法律中東京市トアルハ東京都トス

他ノ法律中市制第六條ノ市トアルハ東京都ヲ含ムモノトス

他ノ法律中市制、市、市役所、市條例、市會、市會議員、市參事會、市名譽職參事會、市長、市吏員、市收入役、市費又ハ市稅トアルハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外各東京都制、東京都、東京都廳、東京都條例、

東京都議會、東京都議會議員、東京都參事會、東京都參事會、東京都長官、東京都官吏及吏員、東京都出納吏、東京都費又ハ東京都稅ヲ含ムモノトシ其ノ他市ニ係ル規定ニ付之ニ準ズルモノトス

前三項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外東京都ノ區ノ存スル區域ヲ以テ東京都ノ區域ト看做ス

第百九十二條 他ノ法律中府縣制又ハ市制ノ規定ヲ揭グル場合ニ於テ本法中ニ相當スル規定アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外各之ニ本法ノ相當規定ヲ含ムモノトス

第百九十三條 府縣制中左ノ通改正ス

第四條第二項但書中「東京市」ヲ削ル

第八十一條第三項中「北海道府縣」ヲ「東京都北海道府縣」ニ改ム

第百九十四條 市制第百七十條第六項及町村制第百五十條第六項中「北海道府縣」ヲ「東京都北海道府縣」ニ改ム

第百九十五條 大正十一年法律第一號中「東京市」ヲ削ル

第百九十六條 地方税法中左ノ通改正ス

第一條第三項中「北海道地方費」ヲ「東京都及北海道地方費」ニ、同條第四項中「北海道地方稅、北海道廳長官、北海道地方費吏員、北海道參事會又ハ北海道條例」ヲ「東京都稅若ハ北海道地方稅、東京都長官若ハ北海道廳長官、東京都參事會若ハ北海道參事會又ハ東京都條例若ハ北海道條例」ニ、同條第五項中「北海道市町村」ヲ「東京都又ハ北海道市町村」ニ、「北海道廳長官」ヲ「東京都長官又ハ北海道廳長官」ニ改ム

第八十五條ノ二、東京都ノ區ノ存スル

區域ニ於テハ第四十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中百分ノ百トアルハ百分ノ三百、百分ノ百二十トアルハ百分ノ三百六十、災害應急費トアルハ國民學校營繕費、災害應急費トス

第八十五條ノ三 東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第四十七條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中百分ノ十トアルハ百分ノ二十トス

第八十五條ノ四 東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第四十八條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中百分ノ十トアルハ百分ノ二十トス

都民稅

自轉車稅

荷車稅

金庫稅

扇風機稅

屠畜稅

犬稅

東京都ハ其ノ區ノ存スル區域ニ於テ前項ニ掲グルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ獨立稅ヲ課スルコトヲ得

東京都ハ其ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第七十五條第一項ニ掲グルモノノ外別ニ税目ヲ起シテ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ都市計畫稅ノ新設及變更ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第八十五條ノ八 東京都ハ區ノ存スル區域ニ於テハ水利地益稅ヲ課スルコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ水利地益稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第八十五條ノ九 東京都ハ區ノ存スル區域ニ於テハ共同施設稅ヲ課スルコトヲ得

第七十九條ノ規定ハ前項ノ共同施設稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第八十五條ノ十 東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都稅及之ニ關聯ヲ有スル東京都内ノ市町村ノ市町村稅ニ關スル事項ニシテ本法ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 地方分與稅法中左ノ通改正ス

第一條中「道府縣」ヲ「都道府縣」ニ改ム

第四條中「道府縣」ヲ「都道府縣」ニ改ム

海道路長官」ヲ「東京都長官及北海道廳長官」ニ改ム

第四章中第四十一條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十條ノ二 配付稅ノ分與ニ關シテハ東京都ハ其ノ全區域ニ付テハ之ヲ道府縣、其ノ區ノ存スル區域ニ付テハ之ヲ市ト看做ス

第九十八條 本法施行前東京府會議員又ハ東京市會議員（同市ノ區ノ區會議員ヲ含ム）ノ選舉ニ關シ府縣制第四十條又ハ市制第四十條ニ於テ準用スル衆

議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條 本法施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國務大臣湯澤三千男君演壇ニ登ル

成リマシタ東京都制案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由並ニ法案中、主要ナル事項ノ概略ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、東京都制制定ノ趣旨ト致シマス所ハ、之ヲ要約致シマスルト凡ソ次ノ三點ニ歸著スルト思ヒマス、其ノ一ハ、帝都タル東京ニ、眞ニ其ノ國家的性格ニ適應シタ確乎タル體制ヲ確立スルコトデアリマス、其ノ二ハ、帝都ニ於ケル從來ノ府市並存ノ弊ヲ是正解消致シ、帝都一般行政ノ一元化ニシテ強力ナル遂行ヲ期スルコトデアリマス、其ノ三ハ、帝都行政ノ運営ニ付根本的刷新ト高度ノ能率化トヲ圖ルコトデアリマス、惟フニ東京ハ、内地人口ノ約一割ヲ擁スル國內無類ノ巨大都市デアリマス、其ノミナラズ、實ニ我が國ノ帝都ト致シマス、比類ナキ國家的意義ト重要性トヲ持ツテ居リマス、更ニ今日ニ於キマシテハ、大東亞建設ノ本據トシテ、全世界ニ其ノ大イナル地位ヲ示スニ至ッテ居ルデアリマス、從ツテ單ニ之ヲ一地方都市乃至ハ一地方トシテ經營致シマスルコトハ、根本的ニ其ノ性格ニ適應セヌモノガアリマス、宜シク其ノ國家的意義ト性格トニ適應致シマスル確乎タル體制ヲ確立スベキデアリ、是コソ大東亞建設ノ基礎ヲ固クマス、斷ツテ帝都行政ノ現狀ヲ見マスルニ、府市ノ並存ハ、典型的ナル二重機構ヲ現出シ、其ノ間行政ノ錯雜ト不統一トヲ來シ、到底敏活強力ナル行政ノ遂行ハ望ミ得ザル狀況ニ在ルデアリマス、時局下緊要ナル諸施策ハ、帝都ニ於テこそ最モ其ノ成績ヲ

舉グベキモノデアリマスルガ、常ニ之ガ遂行上困難ヲ伴ヒマスルコトハ、此ノ點ニ根本ノ原因ガ存スル所ト考ヘルデアリマス、而シテ此ノ一般行政ニ於ケル機構ノ弱體ハ、動モスレバ弊影響ノ負擔ヲ重カラシムルニ至ッテ居リマスルコトハ、一ツノ閑却致シ難キ事實デアリマス、斯クノ如キコトテ、一朝非常ノ事態ニ直面スルガ如キコトアリト致シマスルナラバ、帝都行政ノ確保ハ容易ナラザルモノガアルデアリマシテ、帝都ノ重要性ニ鑑ミ誠ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアルト考フルデアリマス、仍テ此ノ際帝都一般行政ニ付、一元化ニシテ強力ナル行政機關ヲ確立シ、有ラユル場面ニ對應シ、帝都行政ノ萬全ヲ期スルコトガ頗ル緊要ナリト存ズルデアリマス、而シテ帝都行政ノ新機構ニ於キマシテハ、從來ノ東京市政ノ實績等ニ深ク省察シ、其ノ根本的刷新ト高度ノ能率化トヲ圖ルベキハ申ス迄モアリマセヌ、斯クテ帝都行政ガ眞ニ全國、否全東亞ノ範タルニ至ルコトヲ切ニ冀フデアリマス、是ヨリ東京都制案ノ内容ニ付キマシテ、主要ナル事項ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、第一ハ、都ノ區域ニ付テデアリマス、都ノ區域ニ付キマシテハ、從來一部ニ東京市ノ區域ニ依ルベシトスル論ガアリ、又最近ニ於キマシテハ、東京府ノ區域ヲ超エマシタ更ニ廣イ地域ヲ採ルベシトノ論モアルデアリマスガ、本案ニ於キマシテハ、從來ノ東京府ノ區域ニ依ルコトト致シタデアリマス、東京市ノ區域ニ依リ難シト考ヘマシタノハ、東京市ト共ニ多年同一府下ニ於キマシテ深イ關係ヲ持續シテ今日ニ至ツタ多摩其ノ他ノ地域ニ付テ、他ニ適切ナル處理ノ案ガ立タナイデアリマス、即チ如何ナル案モ、結局是等ノ住民ニ對シ今日ヨリ不利不便ヲ與ヘ、是等ノ住民ノ爲ニ深切ナル處理トナラナイコト、及ビ是等ノ地域ガ今後トモ都市生活ノ爲幾多

ノ利便ヲ與フベキコト等ニ依ルモノデアリマス、他面、東京府ヨリ更ニ大ナル地域ヲ採ラナイノハ、近時此ノ種議論ハアリマスルケレドモ、尙議論ノ熟セザルモノガアリマスルノミナラズ、既ニ東京府ニ於キマシテ人口七百數十萬ノ巨大ニ上ツテ居リマスルコト、新地域ノ劃定ニ付キマシテ的確ナル基準ヲ見出し難イコト等ニ依ルモノデアリマス、第二ハ、都ノ首長ニ付テデアリマス、本問題ニ付キマシテハ、從來所謂官選及公選ノ論ガ兩々行ハレ、多年都制ノ必要ガ叫バレナガラモ是ガ今日迄實現ヲ見ルニ至ラナカッタ支障ハ、謂ハバ此ノ點ニ在ッタデアリマスルガ、政府ハ今次都制ヲ行ハムトスル趣旨ニ鑑ミマシテ、都ノ首長ガ官吏タルベキコトハ寧ろ當然ノ歸結デアルト考ヘタノデアリマス、即チ今回ノ都制案ハ、府知事市長トノ職務權限ヲ合セ、其ノ他府市ノ權能ヲ統合シ、一元的機構ノ下ニ帝都一般行政ヲ強力ニ推進セムトスルニ在ルデアリマスカラ、此ノ機構ガ、全國他地方ノ機構ニ比シ更ニ一段ト國家的色彩ヲ濃厚ニシ、國家トノ間ニ緊密ナル聯繫ヲ保持スベキハ當然ノコトデアリマシテ、此ノ趣意ニ於テ、都ノ首長ハ官吏タルヲ至當トスルモノト考ヘルデアリマス、而シテ又是ニ依リ從來東京市政ニ付テ世上ノ批評ヲ招キマシタルガ如キ弊風ハ一掃セラレ、帝都行政ノ眞ノ刷新ト能率化トガ確保セラレ、コトヲ固ク信ズルモノデアリマス、尙都ノ首長ヲ官吏ト爲ス趣旨ニ即應シ、都ノ吏僚組織ニ付キマシテハ此ノ際十全ノ整備ヲ加ヘタイ考デアリマスルガ、此ノ場合、現在ノ東京府及東京市ノ職員ノ取扱ニ付キマシテハ、都制ノ實施ニ當リ、政府ハ最善ノ考慮ヲ拂ハムトスルモノデアリマス、第三ハ、都ノ下級組織ニ付テデアリマス、都ノ下級組織ハ、原則トシテ區トスルノデアリマスルガ、現在ノ東京市以外ノ地域ニ

於キマシテハ、差當リ、概ネ從來ノ如ク市町村ヲ存續セシメルモノデアリマス、是ハ是等ノ地域ノ實情上誠ニ已ムヲ得ナイ所デアリマス、而シテ區ノ制度ニ付キマシテハ、或ハ區ノ自治權ヲ此ノ際大ニ擴張スベシトスルノ論、或ハ寧ロ自治區ヲ廢シマシテ之ヲ純然タル行政區ト爲スベシトスル論等ガアルノデアリマスガ、今次都制案ニ於キマシテハ、所謂區ノ自治權ニ付キマシテハ、概ネ從來ノ制度ニ則リマシテ、唯都條例ノ定ムル所ニ依リ都ノ事務ヲ之ニ移讓シ得ルノ途ヲ拓イタノデアリマス、惟フニ所謂區ノ自治權ヲ擴張シ、都ヲ三十五ノ獨立市ニ分割スルコトハ、單リ都民生活ノ實情ニ即セザルノミナラズ、都行政ノ統一ヲ破壞シ、更ニ都民ノ負擔ヲ區々ナラシメ、決シテ適當ナル結果ヲ得ルモノデナイト信ズルモノデアリマス、併シナガラ又區ノ多年ノ沿革ニ鑑ミ、且都ト下級隣保組織トノ間、簡素ナル自治體ヲ認メ、都ノ體制ニ全體トシテノ調和ヲ與フルヲ必要トスルノ見地ヨリ見マシテ、區ヲ純然タル行政區トスルコトハ必ズシモ適當ノ措置デナイト考ヘタノデアリマス、而シテ區會ニ付キマシテハ、其ノ職務權限等ニ照應シ簡素ナル構成ト爲シタノデアリマスガ、一體區役所ニ付キマシテハ、可及的ニ之ガ陣容ヲ整備充實シ、第一線機關トシテ大ニ其ノ機能ヲ發揮セシメルコトヲ期シテ居ルノデアリマス、之ヲ要シマスルニ都制ノ制定ハ、眞ニ帝都ノ國家的意義ト重要性トニ對應スル確乎タル體制ヲ確立スルト共ニ、一元の機構ノ下、帝都一般行政ノ敏捷強力ナル遂行ヲ圖リ、以テ時局ニ對處シ、帝都行政ノ萬全ヲ期セムトスルモノデアリマシテ、此ノ際速ニ之ガ實現ヲ圖ルノ要アルコトヲ痛感スル次第デアリマス、尙本案中第五十一條ニ付キマシテハ、衆議院ニ於テ區會議長ハ區長ヲ以テ之ニ充テルト云フ點ニ付テ、區會議長ハ議員中

ヨリ之ヲ選舉スルト云フ趣旨ヲ以テ修正ノ議決ガアツタノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、御審議ノ結果貴族院ニ於キマシテモ之ニ御賛成ガアリマシタ場合ニハ、右ノ修正ニ依リ實行致ス考デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望シテ已マナイモノデアリマス

○議長(伯爵松平賴壽) 質疑ノ通告ガザイマス、水野鍊太郎君

(水野鍊太郎君演壇ニ登ル)

○水野鍊太郎君 只今上程セラレマシタ都制案ニ付、一二ノ質問ヲ致シタイト思ヒマシテハ、明治二十二年自治制施行以來ノ問題デアリマシテ、殆ド五十年ニ亙ル懸案デアリマス、嘗テハ政府案トシテ提出セラレタコトモアリマス、二回提出セラレマシタ、今度デ三回目デアリマス、又議會側カラモ提案セラレタコトガアルノデアリマス、併シ遂ニ今日ニ至ル迄、此ノ問題ハ解決セラレナカッタノデアリマス、今回政府ハ帝都行政ノ現狀ニ鑑ミ本案ヲ提出セラレタノデアリマシテ、其ノ内容ニハ多少ノ論議ノ餘地ハアリマセウガ、此ノ多年ノ懸案ヲ解決セムトスル政府ノ熱意ト努力ニ對シマシテハ、私ハ茲ニ敬意ヲ表シマス、併シナガラ今日ハ振古未會有ノ軍國多事ノ際デアリマス、此ノ時ニ此ノ法案ヲ提出シ、之ヲ實行セラレムトスルコトニ付キマシテハ、世間幾多ノ論議ガアリマス、現ニ衆議院ニ於キマシテモ此ノ點ニ付熱心ナル質問ガアツタヤウデアリマス、而シテ此ノコトハ、衆議院ニ於ケル政府ノ説明ニ依リマシテ、大體政府ノ趣旨ハ了解シタノデアリマス、ソレ故ニ私ハ今此ノコトニ付テ御伺ヒスルノデアリマセウ、唯此ノ法律ヲ施行スルニ當リマシテ、政府ノ御心機、御用意ヲ伺ヒタイノデアリマス、都制案ハ機構改革ノ最モ大ナルモノデアリマス、東條總理ハ、機構イデ

リハ自分ハ大嫌ヒデアルト述ベラレマシタガ、此ノ都制案ハ東條首相ノ嫌ヒノ機構イデリ、ト言フテハ語弊ガアリマスガ、機構改革ノ最モ大キイモノデアリマス、即チ東京市、東京府ト云フ團體ヲ解消シテ、新クニ東京都ナルモノヲ作ルノデアリマスルカラ、其ノ機構ヲ根本的ニ改メナケレバナリマセウ、又從テ人事ノ異動モ行ハナケレバナラヌデアリマス、又都長官ヲ官吏トスルノデアリマスルカラ、都廳ニ關スル官制ヲ作ラナケレバナリマス、又内務省地方廳ノ官制モ或程度ハイデラナケレバナリマス、マイ、又場合ニ依リマシテハ特別任用令モ制定セナケレバナリマス、而シテ是等ノ勅令ハ樞密院ノ議ヲ經ナケレバナリマセウ、又府、市ノ官吏吏員ハ、此ノ法律施行ト同時ニ廢官廢職ニナルノデアリマス、又府會議員、市會議員モ亦同時ニ廢職トナルノデアリマス、從テ選舉モ行ハナケレバナリマセウ、又内務大臣ノ衆議院ニ於ケル説明ニ依リマシテ、區ニ關シマシテ、都制百五十九條ニ依リマシテ、幾多ノ勅令ヲ定メナケレバナリマセウ、斯カル次第デアリマスカラ、本法施行ニ當リマシテハ法令ガ隨分出ルノデアリマス、又其ノ實際問題トシテ幾多ノ混雜ヲ惹キ起スコトカアルノデアリマシタカ、此ノ施行ニ除シ色々ナ問題ガ起リ、混雜モアリマセウガ、其ノ混雜ヲ剔抜ケテ施行シタ運籌ニ關シテ萬違算ナキコトヲ期シタイト考ヘテ居リマスガ、政府ノ御用意ハ如何デアリマセウカ、本法ノ施行期日ハ十月一日ト承テ居リマスガ、平時ナラバ此ノ半年ノ期間モ已ムヲ得ナイノデアリマス、或ハ場合ニ依ッテハ一年モ掛ルカモ知レマセウ、併シナガラ今日ハ所謂非常態勢ノ下ニアルノデアリマス、所謂決戰態勢ト云フ言葉ガアリマスガ、決戰態勢下ニアルノデアリマス、決戰態勢下ニ在リマス今日、而

モ又今年ハ幾多ノ憂フベキ事柄ガアリト豫想セラレテ居リマスル今日デアリマスルカラ、成ルベク早ク東京都ノ組織及準備ヲ整ヘテ、之ニ處スベキコトヲ早ク、定メナケレバナリマス、マイ、ソレデアリマスカラ私ハ、十月一日ト云フノハ、平時ナラソレデ宜シウゴザイマス、併シナガラ此ノ場合ニ半年モ經ッテカラ施行スルト云フノハ、餘リニ緩慢デハナイカト思フノデアリマス、出来得ベクンバ一日モ早く之ヲ施行シ、民心ヲ安定シテ、此ノ戰時體制ニ應ズル所ノ處置ヲ東京都ニ執ッテ戴キタイト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ少クモ七月一日迄ニハ之ヲ施行シタラドウカト思ヒマス、ドウカデハナイ、施行致シタイト考ヘテ居リマス、サウ云フヤウナ次第デ、前ニ述べマシタヤウナ色々ノ混雜ハアリマセウガ、成ルベク一日モ早く施行スルヤウニ政府ノ御努力ヲ願ヒタイト思ヒマス、政府ノ御考ハ如何デアリマセウカ、次ニ御伺ヒ致シタイコトハ、都長官ノ權限ニ付デアリマス、都制案ニ依リマシテ、東京都、東京市ヲ併合シテ、都ト云フ團體ヲ作ルノデアリマス、都制案ノ内容ヲ見マシテ、大體、都ハ府縣ト同ジヤウナ規定ニ相成ッテ居リマス、從テ其ノ首長タル都長官ノ權限ハ、大體北海道長官、府縣知事ト同様デアリマス、否同様デハナイ、府縣知事、北海道長官ヨリハ小サイノデアリマス、現狀ノ儘デハ北海道長官、府縣知事、言フ迄モナク北海道小サイノデアリマス、言フ迄モナク北海道長官、府縣知事ハ警察權ヲ持ッテ居リマス、然ルニ都長官ハ、現在ノ儘デハ警察權ヲ持タナイノデアリマス、從ッテ現在ノ東京府知事ノ權限ト大差ナイノデアリマス、東京市ニ於キマシテ、將來ノ東京都ニ於キマシテモ警察權ト云フ警察權關ガアリマス、ソレ故ニ總テノ警察ノ權限ハ警察廳ニ在ルノデアリマス、今、警察廳ノ權限

ヲ總テ都長官ニ委スコトハ實際ニ於テハ困難アリマセウ、併シナガラ或程度ノ警察權ハ都長官ニ御委セニナツテハドウカト思フノデアリマス、若シソレデナク、今日ノヤウナ都長官ノ權限ガ狭小デアリマスナラバ、内務大臣ノ只今述べラレマシタ帝都タル東京ニ、其ノ國家的性格ニ適應シタル確乎タル制ヲ確立スルコト云フコトハ困難デハアリマスマイカ、此ノ目的ヲ達シヨウトシマスルニハ、都長官ニ警察權ヲ與ヘル必要ガアルト思ヒマス、從來東京府知事ノ府政執行ニ遺憾ノ點ノアリマシタノハ、全ク東京府知事ニ警察權ヲナカッタコトデアリマス、故ニ劃一的ノ制度タル都制ヲ實行スル場合ニハ、總テノ警察ノ權能ヲ東京都長官ニ與ヘルコトガ困難デアルト致シマシタナラバ、少クモ或程度ノ警察權、即チ助長行政ト申シマスカ、斯ウ云フ行政ニ關スル警察ノ權ヲ都長官ニ與ヘテハ如何デアリマセウカ、若シ又是モ出來ナイト云フノデアリマスナラバ、此ノ後ニ提案ニナツテ居リマス戰時行政特例法案ノ例ニ倣ヒマシテ、都長官ニ警察總監ニ對シテ指示ノ權ヲ與ヘルコトモノノ方法デアアルト思ヒマス、若シ此ノ權限ガナイナラバ、都長官ハ、今日ノ北海道長官、府縣知事ヨリモ尙弱體デアリマスカラ、私ハ此ノ點ハ甚ダ遺憾デアルト考ヘルノデアリマス、現ニ今日デモ、戰時上ノ關係ニ於キマシテ、物資配給トカ防空ノコトトカ行ヒマスニハ、總テ警察總監ノ協力ヲ求メナケレバ運用上完キヲ期シ難イト云フコトヲ聞イテ居リマス、多分是ハ内務大臣モサウ云フコトハ御承知デアラウト思ヒマス、都長官ノ權限ガ、現在ノ東京府知事ヨリ更ニ強化セラレナイナラバ、戰時體制ニ適應スル制度トハナラナイノデアリマス、又都長官ニハ大物主義ヲ國務大臣級ノ人ヲ据エタラ宜カラウト云フ話モアリマス、又其ノ希望モアリマス、又政府ノ豫算

ヲ見マスルト都長官ノ俸給ガ出テ居リマス、其ノ俸給ヲ見マスルト、普通ノ府縣知事、北海道長官ヨリハ多イノデアリマス、國務大臣ト同様デアリマセウガ、殆ド國務大臣ニ近イ俸給ノ豫算ガ載ツテ居リマス、ソレデアリマスカラ世間デ云フガ如キ大物主義ヲ据エヨウト云フノデアルト云フコトハ想察サレマス、併シ如何ニ大物デアッデモ、如何ニ偉イ人デアッデモ、手腕モアリ、識見モアル人デアッデモ、其ノ權限ガ今日ノ如ク北海道長官、府縣知事ヨリハ弱小デアリマシタナラバ、到底其ノ手腕ヲ揮フコトハ出來マスマイ、内務大臣ノ希望セラレ、帝都一般行政ノ一元的ニシテ強力ナル遂行ヲ期スルコトモ是デハ出來マスマイ、又帝都行政ノ運営ニ付キマシテ高度ノ能率化ヲ圖ルコトモ出來ナイノデアリマスマイカ、併シ此ノ都長官ノ權限ノコトハ、都制ソレ自身トハ直接關係ナイノデアリマス、都制ナル法律ノ中ニハ此ノコトハ書イテアリマセウ、又ソレガ至當デアリマス、即チ是等ノコトハ官制ノ問題デアリマス、ソレ故ニ都制案ガ兩院ヲ通過シテモ、之ヲ施行スルニ當リマシテハ官制ヲ定メナケレバナリマスマイ、官制ヲ御定メニナル際ニ此ノ點ヲ十分ニ御研究ニ相成リマシテ、如何ニシテ都制ノ完備ヲ期スルコトガ出來ルカト云フコトニ付テ思ヒヲ致サレムコトヲ希望致スノデアリマス、此ノ法案ハ、前ニモ述べマシタ通り、五十年來ノ問題ヲ解決スルモノデアリマシテ、私ハ之ヲ非常ニ欣ブノデアリマス、ドウカ無事ニ通過シテ貰ヒタイ、但シ其ノ施行ト運営ニ關シマシテハ、前ニ述べマシタ通りニ十分ナル御考慮ヲ戴キタイト思フノデアリマス、私モ嘗テ直接間接ニ、都制ト申シマスカ、東京市ノ制度ノコトニ關シマシテハ、關係シタ者デアリマスルカラ、東京市ノ制度ニ付テハ特ニ關心ヲ持ツモノデアリマス、都制案ノ實行運営ニ當リテハ、萬全

ヲ期シ、萬遺憾ナカラシメ、其ノ間ニ紛擾摩擦等ガアツテハナリマセウカラ、此ノ點ニ付テ内務大臣ハ深く思ヒヲ致シテ其ノ完璧ヲ期セラレタイト思フノデアリマス、私ガ特ニ此ノ質問ヲ致シマシタノモ其ノ趣旨茲ニ在ルノデアリマスルカラ、内務大臣ハドウカ率直ニシテ明確ナル御所見ヲ開陳セラレムコトヲ希望致シマス

(國務大臣湯澤三千男君 演壇ニ登ル)

○國務大臣(湯澤三千男君) 御答ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一點ハ、都制ノ運営及施行期日ニ關シマスル點デゴザイマシタガ、運営ニ付テハ十分慎重ナル用意ヲ致スベキデアリ、且又其ノ施行期日ハ時局ニ鑑ミテ成ルベク早く、又モット明確ニ申シマスルナラバ七月一日迄迄ニハ之ヲ施行スベキデアリ、斯ウ云フ御意見デゴザイマシタ、都制ノ施行ニ付キマシテハ、御意見ノヤウニ十分周到ナル準備ヲ整ヘナケレバナラヌ覺悟デゴザイマス、又他面時局ノ重大性ニ鑑ミマシテ、極力準備期間ノ短縮ヲ圖リマシテ、成ルベク速カニ之ヲ實施スルヤウ、殊ニ御指摘ノアリマシタ七月一日迄云フ御意見モゴザイマシタガ、十分努力ヲ致シマシテ御趣旨ニ副フヤウニ致シタイト斯ウ考ヘルノ權限ニ付キマシテハ、仰セノヤウニ官制ヲ制定致シマスル際ニ決定シナケレバナラヌ點デゴザイマス、又御述ニナリマシタ警察總監トノ關係、警察權ヲ成ルベク都長官ノ方ニ移讓スル、斯ウ云フ御意見デアリマシタノデアリマス、政府ト致シマシテハ、官制ノ根本的ナ點ニ於キマシテ、又帝都治安ノ重要性、此ノ點ガ延イテ全國ノ治安ニ非常ナ影響ヲ持ツト云フ點ニ鑑ミマシテ、警察總監ハ別ニ之ヲ其ノ儘存置スル、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居リマスルガ、御意見ノヤウニ出來ルダケ助長行政ニ關聯致シマスル警察

權ト云フヤウナモノハ、官制制定ノ際ニ當リマシテ、都長官ノ權限ニスル、斯ウ云フヤウナ趣旨ハ、御尤モナ御意見ト考ヘマスルノデ、御趣旨ノ點ヲ十分斟酌致シマシテ、都長官ノ權限ヲ決メマスル官制制定ノ際ニハ、最善ノ考慮ヲ致シタイト存ジマスルノデゴザイマス、都制制定ニ付キマシテ、十分周到ナル用意ヲ致シ、施行上何等ノ錯誤ノナイヤウニト云フ御忠言ニ對シマシテハ、十分ニ尊重致シマシテ、最善ノ努力ヲ盡シタイト考ヘマスル次第デアリマス

○水野鍊太郎君 此處カラ、簡單デゴザイマスカラ、申述べルコトヲ御許シ願ヒタイト思ヒマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○水野鍊太郎君 只今内務大臣ノ御答辯ニ依リマス、大體ノ趣旨ニ付テハ、私が申述べマシタコトニ御同意デアルヤウデアリマス、ドウカ其ノ通りニ御實行下サラムコトヲ希望致シマス、尙其ノ他ノ點ニ付テ御伺ヒシタイコトモアリマスガ、是ハ委員會ニ讓リマシテ、本議場ニ於テハ私ノ質問ハ之ヲ以テ打切リト致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ東京都制案ハ、其ノ特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ勸議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重孝君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ勸議ニ御異議アリマセウカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(寺光書記官朗讀)

東京都制案特別委員

伯爵島津 忠重君 侯爵細川 護立君

侯爵黒田 長禮君 伯爵後藤 一藏君

子爵曾我 祐邦君 子爵八條 隆正君

子爵大島陸太郎君 子爵三島 通陽君
子爵京極 高銳君 水野鍊太郎君
平塚 廣義君 小原 直君
後藤 文夫君 川村 竹治君
男爵大藏 公望君 堀切善次郎君
男爵本多 政樹君 男爵奥田 剛郎君
男爵肝付 兼英君 中川 望君
遠藤 柳作君 藤沼 庄平君
松村 義一君 丸山 鶴吉君
野村茂久馬君 平沼 亮三君
小野 耕一君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、戰時行政特例法案、日程第三、許可認可等臨時措置法案、日程第四、教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、(一)等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス、委員長溝口伯爵

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照〕
〔ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ依テ〕

戰時行政特例法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十七日

委員長 伯爵溝口 直亮
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

許可認可等臨時措置法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十七日

委員長 伯爵溝口 直亮
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十七日

委員長 伯爵溝口 直亮
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔伯爵溝口直亮君演壇ニ登ル〕

○伯爵溝口直亮君 只今議題ニ上リマシタ三案ニ付キマシテ、委員會ニ於ケル議事ノ模様及其ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル二月二十日ヨリ一昨二十七日ニ互リ五回開キマシテ、二十七日午後ニ於テ、三案共政府提出ノ法案ヲ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、是ヨリ委員會ニ於ケル議事ノ内容ニ付テ御報告申上ゲマス、但シ本問題ニ入ルニ先ダチマシテ、一言御斷リ致シタイコトガゴザイマス、是ハ問題ノ性質上、秘密會ニ致シマシタコトガ多クゴザイマシタ、尙其ノ他ニ於テ、肝要ナル所ハ速記録カラ削リマシタ點モ多クゴザイマス、從ヒマシテ只今其ノ内容ヲ申上ゲマシテモ、此ノ委員會ノ全貌ヲ此處ニ再現スルト云フコトハ極メテ困難デゴザイマスカラ、多分之ニ付テハ御満足ノ行カナイ點モアラウカト存ジマスガ、ソレハ今ノヤウナ次第デゴザイマスカラ御許シテ願ヒタイト存ジマス、尙本委員會ニ於キマシテハ、總理大臣始メ商工大臣、逓信大臣、厚生大臣、企畫院總裁、法制局長官其ノ他政府委員ヨリ、極メテ率直明晰ナル答辯ヲ得マシテ、之ガ爲ニ委員會ノ議事ヲ促進スルノニ非常ニ都合ガ好カッタコトハ、委員一同ノ承服スル所デゴザイマスカラ、茲ニ之ヲ附加ヘテ置キマス、先ヅ第一ニ、法制局長官ヨリ各案ノ説明ガゴザイマシタ、是モ略、本議場ニ於テノ御説明ト違ヒゴザイマセマスガ、其ノ要點ヲ御紹介申上ゲタイト存ジマス、第一、戰時行政

特例法ニ付キマシテハ、是ハ生産力ノ飛躍的擴充、其ノ他萬般ニ互ル綜合國力ノ擴充、運用上ノ具體的要請ニ應ズル爲、法律ノ一般的ナル規律ニ對シ、勅令ノ定ムル所ニ依リ特別ナル措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ拓カムトスルモノデアリマシテ、主要ナル點ハ二點アリマス、第一ハ、法律ニ依ル人又ハ法人ノ行爲ニ對スル禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコト、第二ハ、法律ニ依リ監督又ハ命令、處分其ノ他ノ行爲ヲ爲ス一ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ他ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ行ハシムルコト、ヲ得ルコトニシタ二點デゴザイマス、ソレカラ次ノ許可認可臨時措置法、是ハ行政簡素化ノ爲法律ヲ必要トスル事項ニ付必要ナル措置ヲ爲シ得ルコトヲ定メタデアリマス、ソレカラ第三、教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案、是ハ何レモ目下既ニ其ノ必要ヲ認メナクナリマシタ各法律ノ廢止デゴザイマシテ、之ニ付テハ委員會ヲ通ジテ何等質疑應答モゴザイマセマス、又之ニ關スル御議論モ一ツモゴザイマセマスデゴザイマシタカラ、是ハ別ニ申上ゲマセスコトニ致シマス、其ノ他尙此ノ本法ニ關シマシテ勅令ノ案ガ示サレマシテ、ソレハ戰時行政職權特例ニ關スル勅令ノ要綱デゴザイマス、是ハ他ノ法律ヲ審議致シマス上ニ付テ非常ニ必要ナモノデゴザイマス、此ノ要綱ヲ申上ゲタイト存ジマス、是ハ鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等ノ重要軍需物資ニ關シ、之ガ生産ノ飛躍的擴充ヲ達成セシメムガ爲ニ必要ナル行政職權ニ關スル特例ヲ定メタモノデアリマシテ、主要ナル點ガ三點デゴザイマス、第一ハ、内閣總理大臣ニ於テ各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ得ルコト、第二ハ、重要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要アル場合ニ於テハ勞力、資材、動力及資金ニ關スル各省大臣ノ行政事務ノ一部ヲ、勅令ヲ仰イデ内閣總理大臣自ラ行ヒ又

ハ他ノ各省大臣ヲシテ行ハシメ得ルコト、三ハ、行政官廳又ハ官吏ノ職權ノ調整デアリマス、是ガ只今議題ニナリマシタ第一第二ノ法律ノ審議ニ非常ニ重要ナル關係ヲ有スルモノデゴザイマス、次ニ質疑應答ノ重要ナルモノノ而モ大要ヲ申上ゲタイト存ジマス、尙詳細ニ付テハ速記録ニ付テ御覽ヲ願ヒタイト存ジマス、此ノ質疑應答ハ、大別致シマス二ツニ分ケルコトガ出來マス、第一ハ、法律若シクハ只今申上ゲマシタ勅令ノ内容、ト申シマスヨリモ其ノモノニ付テノ法制上ノ質疑デゴザイマシタ、第二ハ、各法律其ノ他ノ内容ニ關スル所ノ實質上ノ御質疑デゴザイマス、先ヅ第一ニ只今ノ法制上ノ御質疑カラ御紹介致シタイト存ジマス、是モ澤山ゴザイマスガ、約四五項ダケヲ拾ヒマシテ申上ゲタイト存ジマス、第一ハ、主モナルモノハ只今申上ゲマシタ所ノ戰時行政職權特例案、之ニ關スルコトガ大部分デゴザイマス、某一委員ヨリシテ、嘗テ衆議院ノ委員會ニ於ケル説明ニ依リマシタ、此ノ戰時行政職權特例案ノ第一項ニアリマス所ノ指示ト云フモノ、即チ此ノ指示ハ、各省大臣ノ行政部門ニ對スルモノデアッテ、國務大臣ノ輔弼事項ニ全ク關係ナシト云フコトデアルガ、是ハ行政責任ト輔弼責任トガ全然關係ナシト云フ風ニ誤ッテ解釋サレル虞ナシトシナイ、之ニ付テハ尙一應御説明ヲ煩ハシタイト云フ御質問ニ對シテ、法制局長官ヨリ次ノ如ク答辯ガゴザイマシタ、戰時行政職權特例ノ指示ハ、關係大臣ノ行政各部ノ長官トシテ行政職權ニ對スルモノデアッテ、國務大臣トシテノ輔弼ノ職務ニ對スルモノデアリコトハ政府ノ既ニ言明セル所デアリマス、サウシテ關係大臣ノ官制上ノ行政職權ト、國務大臣ノ憲法上ノ輔弼ノ職務トハ、法制上別箇ノモノデアリマスカラシテ、總理大臣ガ關係大臣ニ對シ、其ノ官制上ノ行政職權

ニ對シ指示ヲ致シマシテモ、是ハ何等國務大臣ノ輔弼ノ職務ヲ左右スルモノデナイコトハ當然デアリマス、國務大臣ノ輔弼ノ責任ノ問題ハ、專ラ憲法第五十五條ニ依リ決セラル、モノデアリマス、即チ右ノ勅令第二條ニ依リ、各省大臣ノ職權ヲ調整スルニ付テハ、勅令ヲ承ケテ之ヲ奉ジテ内閣總理大臣自ラ行ヒ、又ハ他ノ各省大臣ヲシテ行ハシメルノデアル、此ノ勅令ヲ戴クニ付テハ、其ノ旨ヲ奏請シテ大權ノ發動ガアルノデアルカラシテ、國務大臣ノ重要ヲ輔弼ノ行ハレルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、而シテ其ノ命ヲ仰グニ付、至ラザル點ガアレバ、勿論國務大臣トシテ責任ヲ負フベキモノデアル、又之ヲ戴イタ結果、之ニ從テ事ヲ措置シテ行クコトガ、適當デナイ場合ガ起テ、ソレヲ知りナガラ其ノ儘ニシテ置イタ場合ニハ、輔弼ノ怠慢ト云フ責ハ免レナイコトデアアル、即チ國務大臣輔弼ノ責任ニ付テハ、憲法ノ條章ガ嚴シテ働クノデアルト云フ御答デゴザイマス、次ニ某一委員ヨリシテ、官制ノ制定ハ憲法上ノ大權事項デアッテ、法律ニ依ッテモ尙之ニ觸レ得ナイト云フ學說ガアル、戰時行政職權特例ニ依レバ、内閣總理大臣ガ命ヲ承ケテ之ヲ實行スルコトナリ居レルモ、官制大權上ニハ支障ハナイカ、ト云フ御質問ニ對シマシテ、法制局長官ヨリ次ノ答辯デゴザイマシタ、大權事項ハ御親裁ニ俟ツノガ本來デアリマス、法律ノ形式ヲ以テモ爲シ得ナイノガ原則デアリ、憲法第十條ガ特ニ但書ヲ設ケテ居ルノモ其ノ趣旨ヲ表スモノト考ヘテ居リマス、此ノ見地デ官制事項ヲ法律ニ定メテ居ルモノモアリマスガ、是ハ例外的ノモノデアリマス、官制ハ勅令ノ形式ニ依ルノガ多イノデアリマスガ、必ズシモ勅令デナクテモ官制ハ定メ得ラル、モノデアリマス、即チ委任ト云フ場合ガアリマス、戰時行政職權特例第三條ハ其ノ場合デアリマス、同

特例第二條ハ委任デハナク「命令ヲ承ケ」デアリマスカラシテ、御親裁ガアルノデアリマシテ、是ハ官制ヲ御定メニナルコト同ジコトトナルノデアリマス、今回ノ場合ハ、具體的工場、具體的事項等ニ應ジテ、極メテ特例的ニ行ハレルノデアリマスカラシテ、一々官制改正ノ手續ヲ執ルコトハ適當デナイト考ヘラレルノデアリマス、特別ノ場合、時期的ニモ大東亞戰爭ニ際シテ限定シ、特別ノ事項ニ付、行政上ノ效率ヲ擧ゲル上ニ於テ必要ト云フコトニナレバ、憲法ノ精神ヲ紊ルコトハナイト考ヘテ居リマス、次ニ一委員ヨリ、是等ノコトノ實質ハ官制改正ノ同様ニナルト見タナラバ、公布ノ必要ガアルコトハ勿論デアラウガ、如何ナル形式ニ依ッテ公布セラル、カ、之ニ對シテ法制局長官ハ、職權調整ハ公布シナケレバナラナイコトハ勿論デアリマスガ、公布形式ハ、政府トシテ最終的ニ決定ハ致シテ居リマセヌガ、只今ノ所ノ考ヘ方トシテハ、内閣告示ニ依ルコトガ適當ト考ヘテ居リマス、次ニ是モ一委員ヨリ、内閣官制第二條ノ意義ニ付テ御質問ガゴザイマシテ、同條ニ依レバ内閣總理大臣ノ指示權ガアルト云フ解釋モアルガドウデアアルカ、ト云フ御質問ニ對シマシテ、法制局長官ハ、本條ノ解釋ニ付テハ、學理上トシテハ種々ナル解釋ガアリマスガ、政府トシテハ、同條ハ文字通り統一、保持ニ止ッテ、之ニ依ッテ内閣總理大臣ガ各省大臣ニ對シマシテ監督、指示スル權能ハナキモノト解釋スルコト云フ御答辯デゴザイマス、大體法制上ノ御質問ハ只今ノヤウナ次第デゴザイマス、次ニ實質上ノ御質問ノ矢張り一部分ヲ御紹介致シタイト存ジマス、第一ハ軍管理工場ニ關シ總理大臣ノ指示權ガアルカドウカ、ト云フ御質問ニ對シテ、政府ハ、工場管理ノコトハ純軍政事項デアアルカラシテ、總理大臣ノ指示權ハ及ブ

モノデアアルト云フ御答デゴザイマス、次ニ原價計算制ト高生産率政策トノ問題ニ付テ二三ノ御質問ガゴザイマシタ、之ニ付テ政府ハ次ノ如ク答ヘマシタ、第一ハ、政府ハ原價計算制度ヲ緩和スル考ヘナイ、原價計算制ノ普及及徹底ハ、能率増進、生産擴充及適正價格ノ決定トニ必要缺ク可カラザルモノデアアル、原價計算制ハ、各重要物資生産ノ爲メ諸工業ニ對シテ之ヲ擴充強化スル考デアアル、即チ之ニ依ッテ企業ノ合理化及能率ノ増進ニ大ナル效果ヲ來スベシ、但シ原價計算ヲ價格決定ノ面ニ如何ニ表現スルカハ種々問題ガアッテ、事業ノ性質其ノ他各種ノ事情ヲ顧慮シテ善處シナケレバナラナイト云フ御答デゴザイマス、次ニ物價政策ニ付テ御質問ニ對シテ、政府ハ次ノ如ク答辯致シテ居リマス、物價政策ニ付テハ適正價格及補助金ノ二本建ニ依リ、補助金政策ヲ執ルニ當テハ、簡々ニ付原價計算ヲ基準トシ、其ノ工業ガ能率ヲ擧ゲ成績良好ナルモノニ對シテハ、之ニ酬ニルガ如ク顧慮スルコトモ必要デアアルト云フ御答デゴザイマシタ、ソレカラ次ニ工場管理ニ付キマシテ、同一工場ニ對シ陸海軍、商工各省ニ於テ各別ニ監督シ、之ガ爲却テ生産ヲ阻害スル事實ガアル、今回ノ如キ非常立法ニテ劃期的ニ生産ノ擴充増強ヲ圖ル爲メハ、是等ニ對シ綜合畫一的ニ監督スル要ハナイカ、ト云フ御質問ニ對シマシテ、技術上成ルベク同一品種トシ、出來得ルダケ單一ニシテ、之ヲ以テ工業ノ能率ヲ擧グルコトニ努メ、且劃據的ヲ排シ、生産ノ擴充増強ニ劃期的效率ヲ擧ゲムトスル、ト云フ御答辯デゴザイマシタ、次ニ尙同條ノ御質問デゴザイマシテ、各省間ニ跨ガル事項ニ付テハ殊ニ簡素化ヲ圖ル必要ガアル、之ニ對シテ政府ハ特別ニ顧慮スル必要ガアルト思フガドウデアアルカ、ト云フ御質問ニ對シマシテ、總理大臣ハ精神のニハ

誠ニ御同感デアアル、努メテ之ガ實現ヲ圖ラウト思フ、ト云フ御答デゴザイマシタ、ソレカラ次ニ小型船舶及木造船ノ問題デゴザイマス、是ハ木造船ニ付キマシテハ今多數ノ小造船所ガアルガ、之ヲ約六分ノ一以下ニ集結シテ、尙大造船所ヲ全國ニ約二十箇所作テ是デ造船ヲ促進シヨウト思フ、之ガ機關ハ、主トシテ燒玉ヲ使フガ、場合ニ依ッテハ自動車ノ機關ヲ利用スルコトモアル、ソレカラ運賃ノコトニ付テ、石炭ノ輸送等ニ機關船ヲ使用スル爲損失ガ生ズルカラシテ、之ヲ補填スル爲ニ豫算ヲ計上シテアル、ト云フ御答デゴザイマシタ、次ニ女子徵用ノ問題ニ付テ御質問ガゴザイマシタニ對シマシテ、厚生大臣ヨリ、本邦ニハ獨得ノ家族制度ト云フモノガアッテ、從ッテ日本ノ女性ハ特殊ノ責任ヲ有スルモノデアアルコトハ勿論デアアル、之ヲ考慮スルシ、飽ク迄勤勞報國ノ實行ニ俟ツコトトシマシテ、女子ヲ徵用スル考ヘナイ、ト云フ御答デゴザイマシタ、ソレカラ次ニ電力ノ問題デゴザイマスガ、重工業、特ニ輕金屬工業ヲ擴充スル爲メハ多量ノ電力ヲ要スルト思フガ、之ガ對策トシテ電力供給ニ遺憾ハナイカ、ト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、之ニ對シテハ間ニ合フ考デアアル、但シ産業立地ノ考慮ヲ以テ、將來特ニ電力ヲ多ク要スル工業ハ、差當リ滿鮮ニ建設シ、該地方ニ於ケル豊富ナル電力ヲ使用シ得ルモノノ如クスルコトガ必要デアアルト考ヘル、ト云フ御答デゴザイマシタ、其ノ他尙勞働及厚生ノ諸問題、官紀肅正ノ問題、工業ノ整理統合及補償ノ問題等ガゴザイマシタ、尙其ノ以外ニ、秘密會若シハ速記ヲ止マシタル間ニ於テ、産業立地ノ問題、造船ノ問題、船員ニ關スル問題、勞働ニ關スル一二ノ問題等ガ質疑應答サレタノデゴザイマス、斯クノ如ク致シマシテ、二月二十七日ニ質疑應答ヲ終リマシテ、討論ニ入りマシテ、一委員ヨリシ

テ、本法律案ハ何レモ此ノ決戦時期ニ於キマスル劃期的産業擴充増進ノ爲ニ必要ナルモノデアルト同時ニ、一方行政ヲ簡素化シテ、國民生活ノ面ニ於テモ、之ニ於テ效果ヲ與フルガ如クシナケレバナラスト思フガ、此ノ實行ニ付テハ、政府ハ餘程ノ御努力ヲ要スルモノト思フ、之ニ付テ萬遺憾ナキヲ期セラレタイト云フコトヲ御述ニナリマシテ、御賛成ノ意見ガゴザイマシタ、續イテ採決ニ入リマシテ、全員一致、三案共政府原案ノ如ク可決スベキモノト決定致シマシタ、右御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ、三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園寛彦君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ勳議ニ御異議ゴザイマセスカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通り御異議ハゴザイマセスカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 賛成

議ニ御異議ハゴザイマセスカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部 第二讀會ノ決議通り御異議ゴザイマセスカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第五、日本證券取引所法案、日程第六、市街地信用組合法案、日程第七、外貨債處理法案、日程第八、特殊財産資金特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ四案ヲ一括致シマシテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセスカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、委員長深尾隆太郎

日本證券取引所法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十五日

委員長 男爵深尾隆太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

市街地信用組合法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十五日

昭和十八年二月二十五日

委員長 男爵深尾隆太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

特殊財産資金特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十五日

委員長 男爵深尾隆太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

外貨債處理法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十八年二月二十五日

委員長 男爵深尾隆太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

市街地信用組合法案

ラムトスルモノデアリマス、此ノ法案ニ付キマシテノ質疑ノ焦點ハ、清算取引ノ少數ノ取引所ニ限定セラル、關係デアリマシタ、今其ノ質疑應答ヲ綜合シテ申上ゲマス、從來ノ株式市場ニ於テ、取引員ノ不心得等カラ暴騰暴落ヲ演ジタ場合モアツタコトハ事實デアリガ、取引所自體トシテハ本來ノ使命ニ專念ヲシテ居ッタ次第デアリ、殊ニ今日ハ戰時金融庫ノ出動ニ依ッテ暴騰暴落ヲ制限スルコトモ出來ルノデアルカラ、殊更ニ今回ノ新機構制定ノ要ハナイカトモ考ヘラル、ソレニ付テモ清算取引市場ヲ二箇所ニ限定セラル、ト云フコトデアリガ、清算取引ノナイ市場ニ於テハ、場外取引又ハ各行爲等ノ間取引ガ行ハレル虞モアリ、又東京、大阪ノ二箇所ノ市場ノミデハ、地方ニ在ル小會社ノ株式市場ニ不便トモ考ヘラレル、清算取引ガ、過當投機トナルコト免レ難イトスレバ、寧ロ全然禁止セラル、モ已ムヲ得ナイコトデアリカト思フガ、若シ取引所組織ノ改正ニ依ッテ其ノ危險ガナイトスラバ、二地方ト限ラズ、少クモ六大都市ニ併置セラレテハ如何ト思フ、又清算取引ヲ失ツタ市場ハ、到底從來ノ規模ヲ維持スルコトガ困難デアリカラ、取引員並ニ從業者ノ轉廢業ヲ餘儀ナクセラル、者等ガ相當多數ニ上ルベキコトモ想像サレル、尙又取引員ガ注文主ヨリ預ッテ居ル證據金ノ返濟、其ノ他從來ノ取引決済ノ爲ニ一時ニ多額ノ資金ヲ必要トスルコトモ考ヘラレル、是等ニ對シテ窮境ニ陥ラシメザル用意アリヤ、等ノ問デアリマシタ、之ニ對シテ、今回取引所ノ改革ヲ企テタ所以ノモノハ、取引所ノ機能ヲ重要視スルカラデアリ、前大戰ニ於テモ、現戰時ニ於テモ、ヨーロッパ各國ハ早クモ取引所ヲ閉鎖シタル實情デアリニモ拘ラズ、我が國ニ於テハ、證券投資ガ大東亞共榮圈經濟工作ニ對シテモ重大ナル役割ヲ持ツベキコトヲ考慮シテ、出來得ル限り

證券所有者ノ安全ト利便トヲ圖ツテ證券投賣ヲ盛ラシムル爲ニ、取引所ヲ閉鎖スルコトナク之ヲ適當ニ改善セムトスルモノデアル、申ス迄モナク惡性「インフレ」ハ最モ警戒スベキモノデアリ、株式ノ暴騰暴落ハ換物思想ヲ刺戟シ「インフレ」ニ進ム虞ガアルノデアリ、若シ從前ノ通り自由市場ノ開放任シテ置キマスレバ、却テ一舉閉鎖ノ已ムナキニ至ルヤウナ場合モ考ヘラレルノデアリ、而シテ清算取引ハ如何ニシテモ適當投機ノ種ヲ藏シテ居ル、併シ他面其ノ長所ハ棄テ難イ次第アルカラ、最小限度ニ於テ存續シタイ考デ、東京大阪ノ二箇所ニ限ルコトトシタ、而シテ之ニ上場スル證券ノ品種ハ、此ノ際十分檢討ヲ加ヘテ取極メ爾積リデアル、其ノ他ノ地方取引所ニ付テハ、清算取引ノ廢止ニ依ッテ大ナル影響ヲ蒙ラザルヤウニ、漸ク逐ウテ推移スルヤウニ考慮スル積リデアルガ、尙其ノ上ニモ轉廢業者並ニ取引員ノ一時急用ノ資金ニ對シテモ適當ニ考慮スベシ、トノ答デアリマシタ、次ニ取引員ヲ株式會社ニ限ル理由ハ如何、株式會社ハ資產信用ノ點ニ於テ勝ルモ、人的要素ノ點ニ於テ缺クル場合ガアルデハナイカ、矢張り信用アル個人ヲ認ムベキデハナイカ、又資產及ビ經理ノ明確ニ重キヲ置クナラバ、有限會社ノ簡便ナルヲ可トシナイデアラウカ、ト云フ問ニ對シ、實際問題トシテ個人ノ可否ヲ差別スルコトハ困難デアリ、又將來ハ少數ノ取引員ヲ以テ大規模ナ仕事ヲスル方向ニ進ムベキモノト期待ヲスルカラ、株式會社ヲ適當ト考ヘタ次第アルトノ答デアリマシタ、又清算取引ガ東京大阪ニ集ルコトトナレバ、各地カラ電話及ビ荷爲替ノ輻輳ガ非常ナコトナルト思フガ、之ニ對スル用意アリヤトノ問ニ對シ、清算ノ取次ヲ集メテ一定ノ時ニ通話スルカ何トカ便法ヲ考慮スル積リデアリ、又荷爲替ニ付テモ考慮ヲスルト云フ答デアリマシタ、次ニ朝鮮、

大連ニ於ケル取引所ハドウスルカト云フ問ニ對シ、朝鮮ハ内地ニ準ジテ急速ニ行フ積リデアルガ、大連ハ滿洲ノ取引所トノ關係モアルカラ適當ナ時期ニ之ヲ行フコトトスルトノ答デアリマシタ、次ニ新取引所法ノ二十二條ニ於テ、政府ノ命令ニ依ッテ取引所自身ガ市場ニ於テ賣買取引ヲ爲シ得ル規定ガアルガ、之ニ反シ自發的ニ賣買取爲スコトヲ禁止スル規定ハナイ、其ノ爲ニ或場合ハハ自發的ニ市場ニ乗出サヤウナ虞ハナイカトノ問ニ對シ、戰時金融庫ノ出動ノミデハ急ノ場合ニ合ハヌ虞ガアル、形勢不穩ノ模樣ガアル場合ニハ、豫メ政府ト打合セ包括的ナ指示命令ヲ得テ臨機出動シ得ルコト等モ考ヘラレルノデ、此ノ規定ヲ設ケタ次第アル、取引所ガ自發的ニ出動スルコトハ許サレナイコトデアル、十九條ニ於テ役員ニ對スル禁止規定ガアル、之ニ依ッテ推シテ考ヘルコトモ出來ルト思フ、ト云フ答デアリマシタ、其ノ他取引所ノ法的性格、出資者ノ地位、權利、役員ノ任期、評議員ノ選任、業務ノ内容、取引員ノ資格ト營業範圍、小口落、證據金兩建、上場銘柄ノ選擇、限月並ニ短期取引問題、現物商ノ將來ニ付キマシテ、専門的詳細ナル質疑應答ガアリマシタ、是ハ茲ニ省略致シマスガ、取引所問題ニ關心ヲ有セラル、方ハ、速記録御一讀ノ價值アルモノト存ジマス、次ニ市街地信用組合法案ニ付テ申上ゲマス、是ハ從來產業組合中ニ包含セラレテ居リマシタモノヲ、今般農林業團體統合關係法律案ノ判定ヲ機會トシマシテ、市街地ニ於テ中小商工業者、勤勞者其ノ他都市ニ於ケル一般庶民ノ金融機關ヲラシムル爲ニ、單行法トシテ制定セラレムトスルモノデアリマス、其ノ質疑應答ノ主ナルモノハ、市街地トハ如何ナル範圍カト云フ問ニ對シ、實質的ニ見テ商工業者、勤勞者等、利用者ノ多數アル見込ノ地域ヲ指スモノデアッテ、

判然タル標準ハナイガ、先ヅ大體人口一萬以上ノヤウナ所ヲ考ヘテ居ルト云フ答デ、次ニ組合員外ヨリ定期積金ヲ預ル仕組トナツテ居ルガ、是ハ貯金銀行ト競合ノ虞ハナイカ、又組合ガ損害ヲ受ケタル結果、組合外ノ預金者ニ迷惑ヲ及サヤウナ場合ハナイカトノ問ニ對シ、貯金銀行ト同様ノ仕事ヲシテ居ルコトハ是迄モ同様デアアルガ、唯組合ハ其ノ地區内ノ協同精神ニ依ル行動ト云フ點ニ重キヲ置イテ居ル次第アル、又損害ノ點ニ付テハ、組合ハ從來貯金ハ増加スルガ貸出ハ少イ狀態デアッテ、其ノ資金ハ主ニ國債其ノ他證券買入ノ方ニ向ケテ居ル有様デ、政府ニ於テモ其ノ方向ニ指導ヲシテ居ル、殊ニ今回ハ監督ノ規定ヲ強化シテ、役員ヲ認可制トスルト共ニ、定款ノ外ニ事業方法書ヲ規定セシメテ、之ヲ認可スルコトトシ、餘剩金ノ支途等モ之ニ依ッテ定メルノデアアルカラ、損害ヲ蒙ルヤウナ場合ハナイコトヲ期待シテ居ル、又一方組合員外ノ預金ト云フコトモ、其ノ人ハ實ハ組合ニ入ル資格ノナイ人ノ預金ハ稀デアッテ、唯手續ヲ厭フテ組合ニ加入シテ居ラス人ガ多イノデアアルカラ、今後ハ成ルベク組合ニ加入セシムル方針デアルトノ答、次ニ組合員ニ法人ヲ認ムルカト云フ問ニ對シ、二十四條第二項ニ依ッテ從來認メラレテ居ルモノヲ認メル外、有限會社其ノ他ノ法人デ、實質ニ於テ個人企業ト同様ニ認メラレルヤウナ小法人ハ認メル積リデアリ、次ニ產業組合ニ於テハ產業組合中央金庫ガ親銀行ノ立場ニナツテ居ルガ、本組合ニ於テハドウナルカ、商工組合中央金庫ニ屬セシムル考ハナイカトノ問ニ對シ、今回產業組合カラ分離ヲシタノデアアルカラ、此ノ際獨自ノ中央金庫ヲ持タイ考ハアルケレドモ、今日急ニ舊來ノ關係ヲ斷ツコトニスレバ雙方ニ不利益ノ點ガアルノデ、今回ハ七十八條規定ノ通り、舊來ノ通り產業組合中央金庫ニ屬

セシムルコトトナツテ居ル、商工組合中央金庫トノ關係モ研究シテ見タケレドモ、雙方ノ採算ノ利害並ニ事務所網ノ關係等ヨリ致シマシテ、現在ニ於テハ產業組合中央金庫トノ結合ヲ有利トスルノデ、左様定メタ次第デアアルガ、將來ハ實情ニ即シテ研究ヲ怠ラヌ積リデアルトノ御答デアリマシタ、次ニ外貨債處理法案ニ付テ申上ゲマス、此ノ法案ハ、我が國ガ舊ニ米國及英國ニ於テ發行ヲシマシタ國債、市債及社債ニ對シテ、當面必要ナル措置ヲ執ラムトスルモノデアリマス、此ノ法案ニ對スル質疑應答ハ、主ニ法文記載條項ノ不明ニ關スルコトデアリマシタカラ、便宜上之ヲ法案說明ノ中ニ織リ込メ御報告申上ゲマス、現在未償還ノ米英貨債ハ、大戰勃發前ノ爲替相場、即チ「ドル」ニ付四圓二十五錢、「ポンド」ニ付十六圓八十四錢ヲ以テ換算ヲシテ見マスルト、今殘ツテ居ル總額ハ二十七億圓前後ニナツテ居リマス、此ノ二十七億圓ノ約半數ハ本邦人ノ所有ニ歸シテ居リ、残りノ半分ハ外國人、其ノ内、僅カノ部分ハ友好外國人ノ所有デ、大部分ガ敵國人ノ所有デアリマス、ソレデ之ヲ此ノ儘放任シテ置キマス、發行者ハ、現狀ニ於キマシテハ元金ヲ償還スル方法ガアリマセスカラ、何時迄モ現存ノ元金ニ對シテ高率ノ利拂ヲ負擔スルノ道理トナツテ居ル、又邦人所有者ト共ニ、此ノ敵性通貨ノ換算率ニ當ニ利害ノ關心ヲ有スルコトモ好マシカラザル次第デアルトデ、是等ノ問題ヨリ民間ノ關心ヲ一掃シテ、將來ノ處理ヲ舉ゲテ政府ノ手ニ集中スル目的ヲ以テ立案セラレタモノデアリマス、ソコデ其ノ方法ト致シマシテ、邦人並ニ友好關係ノ外國人ノ所有者ニ向ッテ其ノ承諾ヲ求メタ上ニ邦貨債ト引換ヘル、又邦人所有者デ其ノ意思ヲ確カムル途ノナキ者、例ハ南北米等ニ殘留ヲシテ居ル邦人デアリマシテ、其ノ所有證券ヲ日本ニ在ル信託會社ニ

預ケテ、其ノ利息ヲ家族ノ手當ニシテ居ルヤウナガアリマス、其ノ所有者ノ分ハ、借換ヲ承諾シタルモノト看做シテ、是等ノ人ハニ對シテ邦貨債ヲ發行シテ借換ノコトト致シマス、此ノ借換ニ付キマシテハ、勿論舊證券ヲ引換フ原則トシマスガ、舊證券ヲ敵國ニ押ヘラレテ居ルモノモアリマス、左様ナ場合ニハ在外大使館、財務官等ノ證明、又ハ本邦銀行ノ在外支店ニ預ケ入レアルコトガ確實ナモノデ、其ノ記號番號ノ判明シテ居ルモノハ、調査ノ上、引換ガナクトモ新券ヲ交付スルモノデアリマス、一方敵國人及借換ヲ承諾シナイ者ノ所有シテ居ル分ニ對シマシテハ、政府ニ於テ全部其ノ債務ヲ肩替リヲシテ、戰勝ノ際ニ於テ國債ト同ジク一括處理ヲスルコトト致シマス、其ノ代價トシテ、發行者ハ今日右債務繼承ノ對價ヲ政府ニ納入スル仕組デアリマス、斯ク致シマシテ市債、社債發行者並ニ邦人所有者ヲ合セテ、外貨關係ハ民間カラニ掃サレル次第デアリマス、此ノ法令ノ施行ニ當リマシテ問題トナリマス點ハ、外貨債ヲ邦貨債ニ引換スル換算率デアリマス、此ノ率ノ決メ方ハ、邦人所有者ト發行者トノ利害ガ正反對デアリマス、又政府ニ納入スル肩替リ對價ニモ關係スルモノデ、政府當局ノ苦心ノ存スル所デアリマス、之ガ爲ニ政府ハ外貨債處理委員會ヲ設ケテ、其ノ審議ノ結果ニ依リマシテ發行者ノ負擔ニ歸スベキ適正ナル對價ヲ査定シ、同時ニ又本邦人所有者ノ享有スベキ適正ナル價格ヲ査定シ、其ノ差額ハ政府ニ於テ補償スルノ途ニ出デムトスルモノデアリマス、次ニ特殊財産資金特別會計法案ニ付テ申上ゲマス、是ハ我が國ガ大陸及南方ノ作戰地域並ニ内地ニ於テ沒收又ハ管理下ニ收メマシタ敵產ヲ有效ニ活用シ、生産ノ擴充及軍事上ノ用途ニ役立タシメテ、戦力ノ增強ヲ圖ルト共ニ之ヲ綜合的ニ運營シ、戰時財政力ノ充實ニ資セムト

スルモノデ、之ニ便ナルヤウ、一般會計カラ外シテ特別會計ヲ設ケムトスルモノデアリマス、之ニ對シマシテ、敵產トハ何カト云フ間ニ對シ、敵國又ハ敵國人ノ財産デ、現在敵產管理法施行ノ對象タル敵國ハ、米國、英國、オランダ、國ノ三國デアリ、其ノ英國ノ中ニ「インド」ヲ含ムコトニナツテ居ルガ、此ノ「インド」ハ早晚除クコトヲ考慮シテ居ルト云フ話デアリマシタ、又速記ヲ止メテ内地、支那及南方ニ在ル敵產ノ種目、價格ノ大要ヲ聽キ取リマシタガ、内地ノ分ハ調査出來テ居リマスルガ、支那及南方ノ分ハ目下著々調査中ノ模様デアリマス、質疑ヲ終リマシテ、討論ニ入リマシテ、一委員カラ、四案共現戰時下極メテ緊要ノモノト認メ原案ニ賛成スルモノデアリ、併シナガラ事ヲ成スハ人ニアル次第デアリカラ、各當事者ノ人選ニハ十分ノ注意ヲ用ヒ、又其ノ運用ニ當テハ遺憾ナキヤウ留意セラレムコトヲ希望スル旨ヲ述べラレマシタ、更ニ又一委員ヨリ、同ジク賛意ヲ表スル次第デアリガ、日本證券取引所法案ニ於テ、證券取引所ハ有價證券ノ引受、買入、賣出等ヲ爲スコトヲ許サレテ居ル、又特定ノ場合ニ於テハ自ラ市場ニ出デテ賣買ノ操作ヲ爲スコトヲ許サレテ居ル、是等ノ立法ノ趣旨ハ十分ニ了承ヲスル次第デアリガ、何分ニモ之ヲ以テ證券取引所ハ、第三者トシテ公正ナル價格形成ニ専念スベキ任務ト、賣買ノ當事者タル場合ト、二ツノ矛盾シタ性格ヲ包藏シテ居ル道理デアリカラ、之ガ實行ニ際シテハ立法ノ趣旨ヲ誤ラザルヤウ政府ノ斷ニ注意ヲ希望スル、尙又取引員ノ資格ヲ株式會社ニ限定セル點ニ付テハ、將來ノ實情ニ留意シテ、個人又ハ有限會社ニ許スコトヲ適當ナリト考ヘル場合ニ於テハ、其ノ改正ニ資カナラザラムコトヲ希望シテ置クト申シ添ヘラレマシタ、是ニテ採決ニ入リマシテ、全會一致ヲ以テ四

案共原案通り可決スベキモノナリト議決致シマシタ、右ヲ以テ報告ヲ終リマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ、四案ノ採決ヲ致シマス、四案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵樺園篤彦君 賛成
○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議、ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 四案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、四案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵樺園篤彦君 賛成
○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議、ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 四案ノ第三讀會ヲ開キマス、四案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、委員長黒木伯爵
農業團體法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十八年二月二十六日
委員長 伯爵黒木 三次
貴族院議長伯爵松平賴壽殿
〔伯爵黒木三次君演壇ニ登ル〕
○伯爵黒木三次君 只今議題ト相成リマシタル農業團體法案外一件ヲ付託セラレマシタル特別委員會ノ經過並ニ其ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル二月二十三日ヨリ二十六日迄、四回ニ互リ開催致シマシテ、時々速記ヲ中止致シマシテ審議ヲ致シタ結果、全會一致、是等二法案ヲ可決致シマシタ、先ツ農業團體法案ニ付テ申上ゲマス、新農業團體ハ從來ノ農會、產業組合、畜產組合、養蠶業組合及茶業組合ノ各系統團體ヲ統合整備シ、戦力增強ノ基礎タル食糧ノ増産確保ニ、全農業者ノ總力ヲ結集シ、其ノ活動ノ最高能率ヲ發揚セシメ、以テ大東亞戰爭ノ完遂ニ遺憾ナキ體制ヲ確立セムトスルモノデアリマス、即チ中央農業會及全國農業經濟會ヲ中央ニ、道府縣農業會ヲ道府縣ニ、市町村農業會ヲ市町村ニ、ソレノ設置致シマシテ、是等新系統團體ノ最下部團體タル市町村農業會ハ、農業者及農業ニ密接ナル關係ヲ有スル者等ヲ以テ之ヲ

組織シ、又農業ニ關スル國策ノ協力機關ト致シマシテハ、中央農業會ハ指導事業ヲ、全國農業經濟會ハ經濟事業ヲ、道府縣及市町村農業會ハ指導、經濟、金融ノ諸事業ヲ併セ行フコトト致シマシテ、從テ中央農業會ハ經費團體、全國農業經濟會ハ出資團體、道府縣及市町村農業會ハ經費及出資ノ兩制度ヲ併セ採ル團體ト致シ居ルノデアリマス、本團體ハ、其ノ重大使命ニ鑑ミマシテ役員ノ任命、認可、其ノ他必要ナル監督規定ヲ設ケ、團體ノ運営上其ノ創意及能力ノ發揮ヲ完ウセシメマシタルト共ニ、行政官廳ノ指導監督ニ依リ其ノ、適正ナル運営ヲサシムル等萬遺憾ナキヲ期スルト云フノガ、大體ノ骨子デゴザイマス、尙農業團體ノ統合ニ伴ウテ、既存團體法規ノ改廢ガ行ハレテ居リマスルガ、其ノ主ナル點ヲ申上ゲマスレバ、産業組合中央金庫ヲ農林中央金庫ト改メマシタルコトデアツテ、之ニ新タニ森林組合系統團體ノ加入ノ途ヲ開イタルト、畜産組合ヲ馬匹組合法ト改メマシタル點等デアリマス、委員會ニ於テハ、熱心ニ質疑應答乃至ハ御意見ノ開陳ガアツタデゴザイマスルガ、其ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマスルト、第一ハ、新團體ノ機構ニ付テデゴザイマス、地方ノ農業會ハ指導、經濟、金融ノ事業ヲ併セ行フニ對シ、中央團體ニ於テハ是等事業ヲ行フ團體ヲソレハ別建ニシタルハ如何ナル理由ニ依ルノデアルカ、トノ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリ、中央團體ヲ別建ニ致シマシタルハ、專ラ實情ニ即シテ考慮致シタルデアリマシテ、中央ニ於テハ指導、經濟、金融ヲ別々ニシタルガ、其ノ各、ノ能率ヲ發揮セシムルニ適當タト考ヘタガ故デアリマシテ、尤モ全國農業經濟會ヲ中央農業會ノ會員トスルコトニ依リマシテ、其ノ間ノ連絡ヲ十分取ルコトニ致シタルノ答辯ガアリマシタ、次ニ農事實行組合等部落團體ヲ

市町村農業會ノ會員トセザル理由如何トノ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリ、農業者ハ市町村農業會ニ強制加入スルコトニナツテ居ルノデアツテ、實行組合ヲシテ加入セシメルコトハ、農業者ヲ二重ニ加入セシメルト云フコトニナルノデ、之ヲ避ケタルデアツテ、決シテ之ヲ輕ク扱フタツテ意味デハナク、從來通り之ヲ維持育成スル政府ノ方針ニハ何等ノ變リハナイ次第デアツテ、且本法案ニ於キマシテモ、員外利用、協力命令等ノ方法ヲ認メテ居ルノデ、現在部落團體ノ活動シツ、アル經濟及農業統制ニ關シテ萬遺憾ナキヲ期シタイトノ答辯ガアリマシタ、第二ハ、市町村農業會長ト市町村長トノ兼任問題ニ付テデゴザイマスルガ、適任者ナラバ、市町村農業會長ト市町村長トノ兼務サセルコトヲ原則トスルと言フガ、如何ナル方針ナリヤ、トノ質問ニ對シマシテ、政府ヨリ、市町村長タル人ノミノ條件ニ限ラズ、其ノ他諸般ノ條件ヨリ見マシテ、適當デアルト考ヘラレル場合ニ於キマシテハ、市町村長ヲシテ團體長ヲ兼スルヤウ指導スルト共ニ、一面、團體長ガ諸般ノ條件ヨリ見マシテ市町村長タルニ適當ナル場合ニ付キマシテハ、寧ロ之ヲ市町村長ヲ兼セシムルト云フ風ニ指導ヲ致シテ參リタイ、トノ答辯ガゴザイマシタ、更ニ法律案第二十九條ノ總會ノ推薦ノ形式ハ如何トノ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリ、此ノ推薦ノ方法ハ總會ノ決議ノ方法ニ依ルノデアルトノ答辯ガゴザイマシタ、尙本問題ハ、委員會ニ於キマシテ有ラユル角度カラ檢討サレ、種々重要ナル質疑應答ガ重ネラレタルデゴザイマス、第三ニ、新農業團體ノ事業等ニ付テノ問題デゴザイマスルガ、農業團體ノ事業ヲ、必行事業ト任意事業トニ分類シテ規定シテア理由、又農村ノ特質ニ鑑ミ農業生産ト農業者ノ生活ハ不可分デアリ、農業者ノ自給生活ヲ簡素、圓滑、快適ナラシムルコトガ

生産増強ノ基盤ト認メラレルガ、當局ハ如何ニ考フルヤ、又厚生事業、特ニ國民健康保險組合代行ニ關スル指導方針ハ如何トノ質疑ニ對シマシテ、新農業團體ノ事業ヲ二ツニ分ケテ規定致シマシタルハ、專ラ法制的理由ニ基クモノデアリマシテ、其ノ間、事業ノ輕重ヲ設ケテ意味デハナク、産業ト生活經濟ノ兩面ニ於テ、從來ノ團體ノナシタル役割、功績等ニ鑑ミマシテ、新團體モ亦地方自治體ト十分ナル關聯ノ下、國策ノ協力機關トシテ、現下食糧増産、民族力増強ノ農村ノ使命達成ノ爲、團體ヲ十分指導シテ參リタイ、又國民健康保險組合ノ代行ニ付テモ、今後トモ一層努力シテ參リタク思フ、トノ答辯ガゴザイマシタ、次ニ新團體ニ對シ政府ハ統制ニ關スル權限ヲ移讓スル方針ナリヤ、トノ質問ニ對シマシテ、政府ヨリ、本團體ハ農業ノ特質並ニ本團體ノ性格ニ鑑ミマシテ、商工業ノ統制會トハ自ラ其ノ事情ヲ異ニスルモノガアルノデアルカラ、權限ヲ移讓スル考ハ今ノ所ナシ、斯様ナ御質問デゴザイマシタ、第四ハ、統合セラルベキ團體ノ範圍ニ付テデアリマスルガ、養鰻組合ノ如キ任意組合ヲ統合スルニ當リ如何ナル取扱方針ナリヤ、トノ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリ、任意組合ハ本法案ニ依ル統合ノ對象トハナラナイノデアリマスルガ、新團體ニ於テ行フ事業ニ關スル此ノ種ノ任意組合ハ、農業團體ノ統合ニ際シ出來ル限リ吸收スルヤウ、行政上ノ指導ヲ致ス方針デアルトノ答辯ガゴザイマシタ、其ノ他團體ノ性格、職能、會員ヨリ除外スル者ノ範圍、統制施設、經費ノ徵收方法、役職員ノ待遇、支部ノ區域、都市購買組合ノ取扱等マ法案ニ關スル重要ナル事項、竝ニ皇國農村確立施設ニ關シマシテハ、村全體ヲ全部自作農トスル譯デナク、自作モ、地主モ、將又小作モ、舉村渾然一體トナリ、生産擴充、民族涵養ノ基礎ヲ作ルノデアルトノ言明ガ

ゴザイマシタ、其ノ他一般農政問題ノ重要事項ニ付テ、多クノ委員ヨリ熱心ナル質疑ガアリ、活潑ナル意見ノ交換ガ行ハレタルデアリマスルガ、其ノ詳細ハ速記録ニ讓リタイト存ジマス、次ニ水產團體法案ニ付テ申上ゲマス、水產業團體ハ、水產會及漁業組合ノ各系統團體、水產物製造業者ノ團體等ヲ統合整備シ、戰爭遂行上、水產業ニ對スル要請ニ應ズルノ體制ヲ整ヘムトスルモノデアリマス、即チ中央水產業會ヲ中央ニ、道府縣水產業會ヲ道府縣ニ設立致シマシテ、道府縣水產業會ハ漁業會及製造業者ヲ以テ組織スルモノデアリマシテ、漁業會ハ漁業者ヲ以テ、製造業者ハ水產物ノ製造業者ヲ以テ、之ヲ組織スルモノデアリマス、是等水產業團體ハ、水產業ニ關スル國策ノ協力機關トシテ、指導事業及經濟ヲ併セ行ヒ、漁業會ハ指導事業ノミヲ行フ場合ガアルノデアリマス、其ノ他水產業團體ノ經理、機關及監督等ニ付キマシテハ、大體農業團體ト同様デアリ、唯漁業會ニ付テハ經費制度ノモノモノヲモ認ムルコトト致シタイト云フコトデゴザイマシタ、是ガ要旨デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ、法案ニ直接關聯スル事項及ビ一般ノ水產問題ニ關シマシテ極メテ熱心ナル質疑應答ガ行ハレタルデアリマスルガ、其ノ主ナル事項ト致シマシテハ、先ヅ法案ニ直接關聯スル事項トシテ、第一ニ、水產業團體ニ於テハ福利施設ヲ行フコトヲ認メルヤ、又認ムルトセバ將來之ヲ法文化スルコトヲ要シナイカ、トノ質問ニ對シマシテ、現在漁業組合ニ於テハ附帶事業トシテ之ヲ行フモノデアリ、將來ニ於テモ福利施設ヲ行フコトヲ認ムルノ方針デアツテ、而シテ差當リ之ヲ法文化スルコトナク進ミタイト云フ御答辯ガゴザイマシタ、第二ニ、本法案第九條ノ漁業ノ定義ヲ、農業ノ定義ト、其ノ趣旨ヲ異ナラシメタ其

ノ理由如何トノ質問ニ對シマシテハ、本法
案ノ漁業トハ、營利ヲ目的トスルモノデアッ
テ、遊漁等ヲ包含セシメザル趣旨ノ法律上
ノ表現デアリマシテ、漁業法トノ關係上、
同法ノ規定ヲ其ノ儘襲踏シタルモノニ過ギ
マセズ、從テテ字句ニ付テハ將來考慮スル旨
ノ答辯ガアリマシタ、右ノ外、漁業會ノ地
區、特別漁業會ノ種類、海洋漁業ノ統制等ニ
關シマシテ種々ノ質疑ガアツタノデゴザイ
マス、次ニ一般ノ水産問題ト致シマシテハ、
第一ニ、最近ニ於ケル諸般ノ事情ニ鑑ミ、
食糧ノ貯藏ヲ重視スル見地ヨリ、水産製品
ノ増産ヲ獎勵シ、又其ノ規格ヲ單純化スル
コトヲ考慮スル必要ハナイカトノ質問ニ對
シマシテ、水産製品ノ増産及其ノ規格ノ單
純化ニ付テハ、今後ニ於テモ十分考慮ス
ル旨ノ答辯ガアリマシタ、第二ニハ、大東
亞水域内ノ海洋漁業ニ付テハ、内地ヲ根據
トスル漁業トノ調整ヲ圖ルコトガ必要トナッ
テ來ルト思フガ如何、トノ質問ニ對シマシ
テ、南方方面ニ於ケル漁業ニ付テハ、關係
方面トモ十分連絡ヲ緊密シテ適切ナル施策
ヲ講ジテ参リタイ、トノ答辯ガゴザイマシ
タ、第三ニ、將來ノ水産ノ南方ヘノ發展ガ
豫期セラレ、ニ鑑ミ、水産教育施設ヲ強化
スルト共ニ、水産試驗機關ヲ更ニ整備擴充
スルコトヲ必要トシナイカ、トノ質問ニ對
シマシテ、現ニ教育施設及試驗機關強化ノ
方策ヲ講ジテ居ルケレドモ、今後益々努力ス
ル旨ノ答辯ガゴザイマシタ、第四ニ、生鮮
魚介類ノ出荷及配給ニ關シテ、生産者ト配給
業者ノ中間ニ特別ノ機關ヲ設置致シマシテ、運
賃「プール」ノ方法ニ依ッテ、生産地ヨリノ集
荷及消費地ヘノ適正且無理ナキ配給ヲ行ハ
セル考ハナイカトノ質問ニ對シテ、生鮮魚
介類ノ出荷、配給ハ、蛋白給源補給ノ上カラ
モ國民生活上重大ナル關係ガアリ、政府ニ
於テモ種々ノ施設ヲ講ジツ、アルガ、今後
十分ノ檢討ヲ加ヘ適切ナル對策ヲ樹立シテ

参リタイトノ答辯ガアリマシタ、第五ニ、生
鮮魚介類ノ公定價格ニ關シマシテ、大衆魚ノ
價格ヲ是正スルノ必要ハナイカ、又公定價
格ノ品目ヲ整理スルノ必要ハナイカ等ノ質
疑ガアツタノデゴザイマスガ、之ニ對シマ
シテハ、現在ニ於テモ機宜ニ應ジ各種ノ方
策ヲ講ジテ居ルケレドモ、尙諸般ノ情勢ヲ
考慮シテ十分考慮シテ参リタイ旨ノ答辯ガ
アリマシタ、右ノ外、漁業生産ノ増産方策ト、
之ニ必要ナル資材ノ供給等ニ關シマシテ、
色々ノ御質疑ガアツタノデゴザイマス、又之
ニ對シテ當局ヨリ懇切ナル答辯ガゴザイマ
シタガ、其ノ詳細ハ是亦速記録ニ付テ御覽
戴キタイト存ジマス、斯クテ質疑ヲ終リマ
シテ、討論ニ入りマシタ處、付託ノ二案ニ
付キマシテ賛成ノ意見ノ開陳ト共ニ、農林
團體法案ノ實施ニ當テハ立法精神ヲ十分
ニ活カシ、新團體ノ使命達成ノ爲其ノ創意
ト能力ヲ十分發揮セシメ、農業者ノ信頼ニ
應ズルト共ニ、眞ニ國策ノ協力機關タル實
ヲ舉ゲシムルヤウ、政府ハ之ニ對シ適正ナ
ル監督ト十分ナル指導助成ヲ加ヘラレタキ
コト、新團體運營ノ中心タル團體長ノ選任
ニ付テハ適正慎重ニ取扱ハレタキコト、國
體統合ハ急務ニ實現セシメ、之ガ爲特殊事
業、財産、負債等ニ付テモ適切ナル措置ヲ
執ルコト等ノ希望ガアリマシタ、表決致シ
マシタル處、全會一致、付託二案共、原案
通り可決スベキモノト議決致シマシタ、以
上ヲ以テ御報告ヲ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナ
ケレバ、兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第
二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセス
カ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 兩案ノ第二讀會
ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問
題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通
リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 兩案ノ第三讀會
ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通
リデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス、次會ハ明日午前十時ヨリ開會致シ
マス、議事日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通
知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後零時八分散會

